



高校選抜 男子ケイリン決勝のフィニッシュ

シクリスムエコー No.189 2012年3月号



平成 23 年度 全国高等学校選抜自転車競技大会 ..... 2



2012 年ツール・ド・台湾 ..... 5

競技規則集 改訂事項一覧表 概要説明 ..... 7

第一級公認審判員講習会結果と講評 ..... 23

2012 年ウイメンズ・ツアー・オブ・ニュージーランド ..... 24

競技大会結果 ..... 25

各海外大会日本代表選手団 ..... 25

東日本大震災の義援募金のご報告 ..... 25

NEWS ..... 26

連盟の動き ..... 26

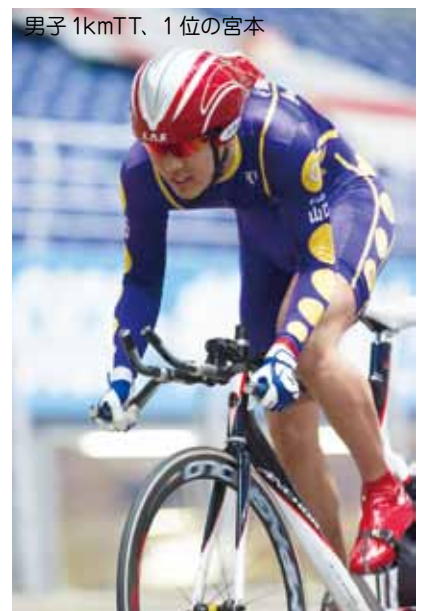
今後の大会予定 ..... 27

ツール・ド・台湾 PHOTO ..... 28



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。

<http://ringring-keirin.jp>





女子ケイリン決勝のフィニッシュ、①が優勝の三宅



女子スクラッチ、1位の山本(左)と2位の中嶋



男子ロード、ゴールスプリント1位の小橋(左)と2位の馬渡



女子ロード優勝の江藤

平成23年度全国高等学校選抜自転車競技大会が3月22日から25日の4日間、福岡県北九州市北九州メディアドーム(トラック競技)及び熊本県山鹿市菊鹿地区特設ステージ(ロード競技)で開催された。

初日、開会式後に行なわれた女子2km個人追抜予選、男子3km個人追抜予選の結果を受けて、翌日に順位決定戦が行なわれた。女子2km個人追抜は江藤里佳子(別府商)が2分43秒747で優勝、2位は細田愛未(川越工)、3位は柳本愛奈(笛吹)となった。男子3km個人追抜は予選で大会新記録を更新した二人の対戦となったが伊藤和輝(昭和第一)が3分34秒043で優勝、2位は鈴木康平(星陵)、3位は渡邊翔太郎(岐南工)となった。

ポイントレースは西村大輝(昭和第一)と小林泰正(高崎工)の1点差を争うマッチレースとなったがゴール勝負を制した西村が優勝、2位は小林、3位は岡本隼(和歌山北)となった。

男子スクラッチは牽制が続き集団ゴールが予想されたが、残り2周で飛び出した霧良生(祐誠)が逃げ切り優勝を飾った。2位は矢羽々正臣(紫波

総合)、3位は小菅裕麻(笛吹)となった。

女子スクラッチは後半、山本レナ(北桑田)と中嶋綺砂(暁)の2名が逃げ、そのまま山本が逃げ切り優勝、中嶋が2位、3位は小川美咲(伊豆総合)となった。

女子500mタイム・トライアルはただ一人40秒を切った1年の三宅玲奈(岡山工)が優勝、2位は齋藤望(古川工)、3位は小川美咲(伊豆総合)となった。

男子1kmタイム・トライアルは宮本隼輔(防府商)が1分08秒235で優勝、2位は堀兼壽(岐阜第一)、3位は井田圭真(紀北工)となった。

男子ケイリンは森本尊也(岡豊)混戦を制し優勝、2位は長谷部翔(伊豆総合)、3位は齋藤涼(前橋工)となった。

女子ケイリンは三宅玲奈(岡山工)が500mタイム・トライアルに続き2種目の優勝を飾り、2位は福田礼佳(作新学院)、3位は竹井史香(津田)となった。

スプリント決勝は予選1位から勝ち上がった佐伯亮輔(倉吉西)と予選2位から勝ち上がった橋本瑠偉(龍谷)との対戦となったが佐伯が2本先取して優勝した。2位は橋本、3位は佐藤京平(京葉工)となった。

大会最終日は熊本県山鹿市菊鹿

地区特設ステージに会場を移し、個人ロードレースが行われた。やや寒さはあったが晴天でのレースとなった。男子80.5km(7周)、女子34.5km(3周)で実施された。男子はレース序盤から徳田優(北桑田)、山本大喜(榛生昇陽)らが逃げる展開で進み残り1周を切ってから第2集団に追いつかれゴール勝負となり小橋勇利(松山工)がタイヤ差で優勝、2位は馬渡伸弥(昭和第一)、3位は横山航太(篠ノ井)となった。入賞は逃したものの徳田の積極果敢な走りに感動した。

女子はレース序盤から13名が集団を形成し、最終周までもつれ込んだが、江藤里佳子(別府商)が優勝、2位は谷伊央里(前橋育英)、3位は日野友葵(丹原)となった。

男子学校対抗総合は4種目の入賞(2種目は優勝)を果たし28点を獲得した昭和第一がインターハイに続き総合優勝を飾った。また、今年度から採用された女子学校対抗総合は3種目の入賞(2種目は優勝)を果たした岡山工が総合優勝を飾った。

(井上 正継)

**【競技結果】**

平成 23 年度

全国高等学校選抜自転車競技大会

(2012/3/22-25福岡/北九州・熊本/山鹿)

**男子スプリント**

- 1 佐伯 亮輔 鳥取 倉吉西
- 2 橋本 瑠偉 佐賀 龍谷
- 3 佐藤 京平 千葉 京業工



**男子 1km タイムトライアル**

- 1 宮本 隼輔 山口 防府商 1:08.235
- 2 堀 兼壽 岐阜 岐阜第一 1:08.374
- 3 井田 圭真 和歌山 紀北工 1:09.245



**男子ケリソ**

- 1 森本 尊也 高知 岡豊
- 2 長谷部 翔 静岡 伊豆総合
- 3 齋藤 涼 群馬 前橋工



**男子 3km 個人追抜競走**

- 1 伊藤 和輝 東京 昭和一学園 3:34.043
- 2 鈴木 康平 静岡 星陵 3:35.748
- 3 渡邊翔太郎 岐阜 岐南工 3:40.695



**男子スクラッチ**

- 1 霍 良生 福岡 祐誠
- 2 矢羽々正臣 岩手 紫波総合
- 3 小菅 裕麻 山梨 笛吹



**男子ポイントレース (24km)**

- 1 西村 大輝 東京 昭和一学園 25p
- 2 小林 泰正 群馬 高崎工 24p
- 3 岡本 隼 和歌山 和歌山北 11p



**男子個人ロードレース**

- 1 小橋 勇利 愛媛 松山工 2:08:28.3
- 2 馬渡 伸弥 東京 昭和一学園 2:08:28.3
- 3 横山 航太 長野 篠井 2:08:29.8



**男子総合成績**

- 1 昭和一学園高等学校 東京 28p
- 2 祐誠高等学校 福岡 16p
- 3 紫波総合高等学校 岩手 12p



**女子 500m タイムトライアル**

- 1 三宅 玲奈 岡山 岡山工 39.676
- 2 齋藤 望 宮城 古川工 40.166
- 3 小川 美咲 静岡 伊豆総合 40.503



**女子スクラッチ**

- 1 山本 レナ 京都 北桑田
- 2 中嶋 綺砂 三重 暁
- 3 小川 美咲 静岡 伊豆総合



**女子 2km 個人追抜競走**

- 1 江藤里佳子 大分 別府商 2:43.747
- 2 細田 愛未 埼玉 川越工 2:45.804
- 3 柳本 愛奈 山梨 笛吹 2:43.886



**女子ケリソ**

- 1 三宅 玲奈 岡山 岡山工
- 2 福田 礼佳 栃木 作新学院
- 3 竹井 史香 香川 津田



**女子個人ロードレース**

- 1 江藤里佳子 大分 別府商 1:06:04.7
- 2 谷 伊央里 群馬 前橋育英 1:06:11.8
- 3 日野 友葵 愛媛 丹原 1:06:14.0



**女子総合成績**

- 1 岡山工業高等学校 岡山 20p
- 2 別府商業高等学校 大分 18p
- 3 古川工業高等学校 宮城 15p



# 2012年ツール・ド・台湾

## 日本ナショナルチーム 団体総合優勝!



### 3月10日 第1ステージ 52km

パレード走行1周の後、2周目折り返しで9名の選手が集団から抜け出す。3周目に入りメイン集団に吸収される。

3周目を折り返し5名の選手が集団から抜け出したところ、西谷が単独で集団から抜け出しトップ集団に追い付き、トップ集団6名でメイン集団を引き離す。

ラスト2周、6名とメイン集団とのタイム差30秒、ラスト周回折り返しで40秒差。13秒差で逃げ切った6名のゴールスプリントは優勝が期待された西谷が最終コーナーでスリップし、ラスト400mを最後方から追い上げ4位でゴール。優勝はGiacoppo Anthony(ジェネシス)。日本チームは初日走りだし落車もなく順調なスタートを切った。

### 3月11日 第2ステージ 118.01km

ニュートラル走行12km、昨年同様スタート開始からアタック合戦となるが、なかなか逃げは決まらず、40km地点でKhalilikhosroshahi Behnam(Tabrizイラン)がメイン集団から単独でアタック、43km地点で34秒差。

追走して2名の選手がメイン集団から抜け出す。63km地点で逃げているトップ選手と追走2名とのタイム差1分、メイン集団とは2分45秒となった。

追走していた2名が2回目の山岳ポイント登り口でメイン集団

に吸収され、単独で逃げていたKhalilikhosroshahiも85km地点でメイン集団に吸収される。

激坂の山岳ポイントを下り切りラスト30km、メイン集団からアタックが繰り返され、西谷、宮澤崇史(サクソバンク)を含む7名の選手がメイン集団から抜け出す。ラスト20km、メイン集団とのタイム差20秒。

メイン集団に取り残されたレースリーダーのGiacoppoが必死にトップ集団を追うがタイム差は詰まらず、7名のトップ集団はそのままゴールスプリントとなり、Wong Kam Po(香港ナショナルチーム)がゴールスプリントを制した。

5位に入った宮澤は昨日のレースリーダーを逆転し、5秒差で総合1位となり明日からイエロージャージを着てスタートする。

### 3月12日 第3ステージ 126.29km

強い風が吹きレース展開に大きく影響し、周回コースが複雑に交差するコースのため、風向きを計算して走るように指示する。

スタートから強い追い風に乗って55km/h以上のハイペースでレースが展開される、レースリーダー宮澤の居るサクソバンクが集団をコントロールする中、集団から逃げを試みるアタックが繰り返される。

37km地点で福島晋一(トレンガヌ)ともう1名が集団から抜け出し徐々にタイム差を広げる。56km地点で最大

4分21秒と大きく引き離し逃げ切れるかと思われたが、サクソバンクが集団をコントロールし徐々にタイム差を詰め、福島はラスト8kmの山岳に入った所で惜しくも集団に吸収される。

メイン集団はそのままゴールスプリントとなり、Giacoppoが2勝目。

総合6秒差で西谷4位、チーム総合44秒差で2位に浮上。

### 3月13日 第4ステージ 111.22km

ニュートラル走行3km、スタート直後からアタック合戦となり積極的なレース展開となる。

小グループが小間切れとなり、43km地点で集団が大きく分かれトップ集団17名、日本チームは畑中1人だけで不利なレース展開となる。

20秒前後のタイム差でメイン集団との攻防が続く中、トップ集団がまとまらず54km地点でメイン集団に吸収される。

60km地点で福島を含む4名が集団から抜け出し今日も積極的にアタックを仕掛け逃げを試みる福島。

徐々にメイン集団とのタイム差を広げ、メイン集団とのタイム差1分30秒前後で逃げるがラスト20kmから徐々にタイム差を詰められる。ラスト7kmで集団に吸収され、福島は連日惜しくも逃げ切る事が出来なかったが、山岳ポイントを獲得し、明日から山岳リーダージャージを着て走る。

登り基調の集団ゴール勝負を制したのは、Cantwell Jonathan(サクソバンク)、期待された西谷はゴール前の落車の影響で前に出られず22位。

### 3月14日 第5ステージ 136.05km

台中から南下した彰化懸、大仏様のある小高い丘からスタートして大きく1周130,05kmを走り、スタート地点の大仏様がゴールとなる。

スタート直後からの幅の広い2段坂はアタックの掛かりやすい場所で要注意。頂上かと思われる所から1kmほど急な上坂になるので集団の前にポジションを置くように指示する。

予想通り幅の広い上り坂でメイン集団から4名の選手が抜け出し逃げる。1分差となった7km地点で1人、23km地点でもう1人が遅れ、トップは2名となり、メイン集団とのタイム差2分。

徐々にタイム差は広がり60km地

点では4分20秒まで開くが、後半レースリーダーの居るドラパックチームが中心となり集団のペースを上げる。徐々にタイム差を詰めて行きラスト3km地点で逃げていた2名は集団に吸収される。最後大仏様に上がる激坂500mの集団ゴールスプリントを制したのはFerrari Roberto(アンドローニ)。

ステージ総合時間で日本チームはアンドローニチームと4秒差で首位となった。当初からの目標であったステージ優勝はもとより、明日からのレースはチーム総合優勝も目指す。

### 3月15日 第6ステージ 128.96km

南に下がったため、気温が高くなり選手を苦しめる。終盤まで平坦コースだがラスト5kmから上り坂が始まりラスト1kmは平均勾配10%はあるだろう激坂が今日の勝負所となる。

チーム総合優勝も今日のラスト1kmが勝負。スタートからアタック合戦となり前半は常に50km/h以上のハイペースでレースが展開される中、8km地点から福島を含む3名の選手が集団から抜け出し逃げる。

徐々にタイム差が開き103km地点では3分6秒差までひらくと、レースリーダーのいるドラパックチーム、ステージ優勝を狙う各チームが集団のペースを上げ始めトップグループとのタイム差を徐々に詰めてゆく。ラスト10kmを切った所で1分差となり、集団のペースもさらに加速。勝負に出た福島は今日も残念ながらラスト6kmでメイン集団に吸収されてしまう。

大集団で最後の勝負所となる上り坂に入り、ラスト1kmで集団が一列棒状となって集団から遅れる選手が続出する中、中尾・早川は遅れるがメイン集団の状況が分からず、他の3選手の健闘を願いながら無線の情報を聞く。トップ選手がゴール、1位はアザドチーム、2位に日本選手が入ったと聞こえたが誰が入ったかは不明、西谷かと思われたが、マークされていなかった2名が上手く集団から抜け出しゴール。Nino Corredor Victorga(アザド)が優勝、畑中2位、10秒遅れで西谷13位。2位でゴールした畑中は個人総合で9位に上がり、チーム総合は36秒差を付け首位を守った。

### 3月16日 第7ステージ 126.12km

最終ステージ高雄市郊外を周回してスタート地点に戻るアップダウンコース。ステージ優勝とチーム総合優勝を狙い元気にスタートした日本チーム。

ステージ毎に成長した選手の走りは、これからの日本ナショナルチームの大きな力となる。

13.45kmのニュートラル走行後スタート。最終日とあって昨日同様スタート直後からアタック合戦があり高速のレース展開となる。

なかなか逃げは決まらない中、48km地点で4名の選手が集団から抜け出し徐々にタイム差を広げるが、レースリーダーのいるドラパックチームがメイン集団をコントロール、1分30秒前後の差を保ちながらレースが展開される。

ラスト30kmから徐々にタイム差が詰まり、ラスト10kmでYEUNG Ying Hon(ホンコンナショナルチーム)がメイン集団に吸収される。

ラスト4kmでトップグループはメイン集団に吸収され最終ステージも大集団のゴール勝負となった。

ゴール前のコーナーでリーダーのPollock Rhys(ドラパックチーム)が落車するなど、激戦となったゴールスプリントを制したのはチーム力で勝ち取った、Cantwell。

個人総合では2秒差でPollockが優勝。西谷は8秒差で4位、畑中勇介38秒差で9位。チーム総合は日本ナショナルチームが優勝。

#### <まとめ>

多くのプロチームが参加したUCIカテゴリー1のレースで日本ナショナルチームの団体総合優勝は初めて。今回初参加のU23の山本、早川、中尾はレース展開の多くを学び今後に大きな力と自信に繋がった。

また個人総合で4位の西谷がUCIポイント24点、9位の畑中7点、ステージ入賞ポイント西谷5点、畑中11点で合計47点を獲得、世界選参加ポイントに加算した。

(JCF強化コーチ 高橋松吉)

#### 【競技結果】

2012 ツル・ド・台湾  
(2012/3/10-16 チャイニースタイル)

##### 個人総合成績

1	POLLOCK Rhys DPC	19:09:44
2	WONG Kam Po HKG	+0:02
3	MULLER Dirk TSP	+0:06
4	西谷 泰治 愛知 愛三工業	+0:08
9	畑中 勇介 東京 シノ	+0:38
17	山本 元喜 奈良 鹿屋体育大学	+1:04
43	早川 朋宏 愛知 法政大学	+5:14
59	中尾 佳祐 埼玉 順天堂大学	+11:19

##### 団体総合成績

1	日本ナショナルチーム	57:31:09
2	ANDRONI Giocattoli	+0:36

3 DRAPAC CYCLING +1:04

#### 第1ステージ (52.0km) クリテリウム

1	GIACOPPO Anthony GEN	1:07:15
2	WU Po-Hung TSM	+0:02
3	POLLOCK Rhys DPC	〃
4	西谷 泰治 愛知 愛三工業	〃
38	早川 朋宏 愛知 法政大学	+0:13
44	山本 元喜 奈良 鹿屋体育大学	〃
71	畑中 勇介 東京 シノ	〃
73	中尾 佳祐 埼玉 順天堂大学	〃

#### 第2ステージ (118.01km)

1	WONG Kam Po HKG	2:58:37
2	MULLER Dirk TSP	〃
3	GOESINNEN Floris DPC	〃
7	西谷 泰治 愛知 愛三工業	+0:07
36	山本 元喜 奈良 鹿屋体育大学	+0:42
47	畑中 勇介 東京 シノ	〃
64	早川 朋宏 愛知 法政大学	+2:41
70	中尾 佳祐 埼玉 順天堂大学	〃

#### 第3ステージ (126.29km)

1	GIACOPPO Anthony GEN	3:11:06
2	FERRARI Roberto AND	〃
3	NATEGHI Hossein TPT	〃
16	山本 元喜 奈良 鹿屋体育大学	〃
21	西谷 泰治 愛知 愛三工業	〃
25	畑中 勇介 東京 シノ	〃
50	早川 朋宏 愛知 法政大学	+0:48
56	中尾 佳祐 埼玉 順天堂大学	+1:17

#### 第4ステージ (111.22km)

1	CANTWELL Jonathan SAX	2:40:14
2	FERRARI Roberto AND	〃
3	SEROV Alexander RVL	〃
22	西谷 泰治 愛知 愛三工業	〃
29	畑中 勇介 東京 シノ	〃
35	山本 元喜 奈良 鹿屋体育大学	〃
62	早川 朋宏 愛知 法政大学	+0:33
78	中尾 佳祐 埼玉 順天堂大学	+2:17

#### 第5ステージ (136.05km)

1	FERRARI Roberto AND	3:14:30
2	HAEDO Lucas Sebastian SAX	〃
3	GIACOPPO Anthony GEN	〃
10	山本 元喜 奈良 鹿屋体育大学	〃
13	西谷 泰治 愛知 愛三工業	〃
16	畑中 勇介 東京 シノ	〃
38	早川 朋宏 愛知 法政大学	〃
73	中尾 佳祐 埼玉 順天堂大学	+1:05

#### 第6ステージ (128.96km)

1	NINO CORREDOR Victor AZC	3:10:33
2	畑中 勇介 東京 シノ	〃
3	OTHMAN Muhamid Adiq CSS	+0:05
13	西谷 泰治 愛知 愛三工業	+0:10
18	山本 元喜 奈良 鹿屋体育大学	+0:21
40	早川 朋宏 愛知 法政大学	+1:10
68	中尾 佳祐 埼玉 順天堂大学	+3:57

#### 第7ステージ (126.12km)

1	CANTWELL Jonathan SAX	2:47:18
2	FERRARI Roberto AND	〃
3	OTHMAN Muhamid Adiq CSS	〃
13	西谷 泰治 愛知 愛三工業	〃
27	早川 朋宏 愛知 法政大学	〃
31	畑中 勇介 東京 シノ	〃
48	山本 元喜 奈良 鹿屋体育大学	〃
54	中尾 佳祐 埼玉 順天堂大学	〃

# (財)日本自転車競技連盟 競技規則集

## 2012年改訂事項一覧表 概要説明



財団法人 日本自転車競技連盟

↑② 山折り

←① 取り外して、切る

### 2012年版 JCF 競技規則集

(財)日本自転車競技連盟 2012 年版の競技規則集が発行されました。  
ご購入希望のお問合せは、各加盟団体へお問合せください。

※ このページから内側部分を取り外して、①折り目部分で切り取り、  
②点線部分を山折りにして下さい。携帯版 (A5,32p)になります。



(財)日本自転車競技連盟競技規則集改訂事項一覧表概要説明

2012年3月14日

2012年版 JCF 競技規則集の改訂につき、UCI 規則に準拠して案を作成し、次ページより一覧表といいたしました。

かつて、UCI が印刷物で改訂された規則を配布していたころは、12 月中に各競技種目の規則が改訂・発表されていましたが、近年は UCI WEB サイト上に発表されるため、改訂された規則が理事会承認を受け、UCI 法務部のチェック終了後に随時公表されるようになりました。1 月末に UCI 理事会が行なわれるため、2 月中に公表される規則も多くなりました。今回の改訂作業では、下記の UCI 規則の改訂を反映いたしました：

第 1 部	スポーツとしての自転車競技組織	2011 年 10 月 01 日版
第 2 部	ロード・レーズ規則	2012 年 02 月 01 日版
第 3 部	トラック・レーズ規則	2011 年 10 月 01 日版
第 4 部	マウンテンバイク規則	2012 年 02 月 01 日版
第 5 部	シクロクロス規則	2011 年 07 月 01 日版
第 6 部	BMX 規則	2012 年 02 月 01 日版
第 7 部	トライアル規則	2011 年 02 月 01 日版
第 8 部	室内自転車競技規則 サイクルサッカー	2010 年 10 月 01 日版
第 8 部	室内自転車競技規則 サイクルフラインギョウ	2008 年 01 月 01 日版
第 9 部	世界選手権大会規則	2012 年 02 月 01 日版
第 10 部	大陸選手権大会規則	2009 年 06 月 30 日版
第 11 部	オリンピック競技大会規則	2010 年 09 月 30 日版
第 12 部	懲戒および手続き規則	2011 年 10 月 01 日版
第 13 部	スポーツの安全と健康状態	2011 年 05 月 04 日版
第 14 部	アンチドーピング規則	2012 年 02 月 01 日版
第 15 部	サイクリング・ツアー・オーラル規則	2011 年 10 月 01 日版
第 16 部	パラサイクリング規則	2011 年 10 月 01 日版

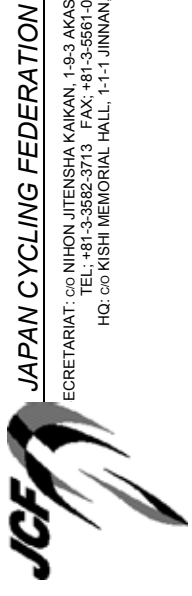
次ページ以降に、2011 年版と 2012 年版の対照表を示しますのでご覧ください。

追記：2012 年版の表紙色は白系統となります。

第 6 条	1	【国際自転車競技連合 (UCI) 国際競技日程の大会を主催するとき】 当該年度の UCI 国際競技日程登録締切日の 2 ヶ月前までに登録申請を行うこと。 【本連盟国内競技日程の大会を主催するとき】 当該年度の前年度 1 月 31 日までに登録申請を行うこと。 (登録の有効期間)
第 7 条		本連盟の加盟団体。 当該年度の 4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までとする。 本連盟の加盟団体以外の諸団体、法人、個人。 【国際自転車競技連合 (UCI) 国際競技日程の大会】 登録認可日から、当該年度の UCI 国際競技日程の最終日とする。
第 8 条		【本連盟国内競技日程の大会】 当該年度の 4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までとする。 (登録主催者の権利) 登録申請時に選択することにより、本連盟による別記の追加サービスを受けることができる。登録期間の途中で登録料の差額を納めることにより、サービスを追加することができる。 (登録料) 登録主催者は、そのカテゴリ、種目、形態、クラス、サービスに応じて別に定める登録料を本連盟に納入しなければならない。 (登録の表示) 登録主催者は、競技大会に関する印刷物、掲示物、アクレディテーション、車両、バナー等に、登録認可および本連盟のロゴを表示できる。
第 9 条		(登録記載事項の変更) 登録主催者は、登録申請時の諸事項に変更を生じたときは、直ちに本連盟に届け出るものとする。 (登録の取消) 登録主催者が次の各号に該当するときは、その登録を取消す。 登録の取消を申請したとき、 主催団体としての実態を失ったとき。 第 3 条に規定する申請時に虚偽の届出をしたとき。 本連盟の競技規則に抵触し、登録主催者の資格を失ったとき。 登録者規程に抵触したとき。 前各号のほか、本連盟の理事会が登録主催者として不適当と認めたととき。 (登録証の返還) 前条により登録を取消された者は、登録証を本連盟に返還しなければならない。
第 10 条		(資格審査の不服申立) 資格審査に不服のある登録主催者は、その旨を本連盟の審査委員会に申し立て、その裁定を受けることができる。 審査委員会の決定は最終とする。 登録主催者でその登録を取消された者が、次の各号にいたったときは、再登録の申請をすることができる。再登録は本規程第 8 条を経て発効する。 登録を取消された日から起算して、満 1 年を経過した者。 復権を認められた者。
第 11 条	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	(例外規定の運用と処理) この規程に定めていない事項、または登録に関する疑義および紛争が生じたときは、本連盟の常務理事会が処理するものとする。 (施行期日) 付 則 2012 年 4 月 1 日制定
第 12 条		
第 13 条		
第 14 条	2	
第 15 条	① ②	



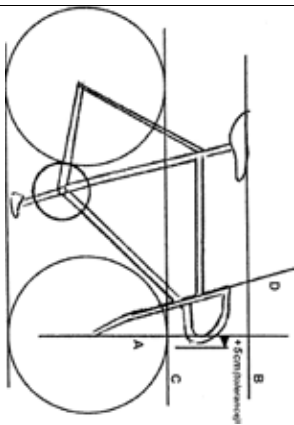
3	本連盟は、登録料の入金を確認し、主催者としてのライセンスを与え、登録証を発行する。
4	本連盟に提出された登録申請書および添付書類は、登録番号を付して登録台帳に保管する。
5	登録申請は、新期申請と更新申請とし、更新申請のときは添付書類の一部を免除することができる。 (登録認可の条件)
第4条	主催者のカテゴリにより登録認可の条件を下記に定める。
1	本連盟の加盟団体
(1)	【都道府県自転車競技連盟】 当該都道府県内において開催する競技大会、および主として当該加盟団体に登録する競技者を対象とする競技大会を主催するライセンスを与える。
(2)	本連盟が推奨する安全対策を講じること。
(3)	大会運営に関する危険に関して有効な保険に加入していること。
(4)	事故があった場合、報告およびその後の対策を本連盟に提出すること。
(1)	【全国的に組織された団体】 主として当該団体が統括する登録競技者を対象とする競技大会を主催するライセンスを与える。
(2)	本連盟が寄付行為に定める事業目的に合致する事業を行うこと。
(3)	本連盟が推奨する安全対策を講じること。
(4)	大会運営に関する危険に関して有効な保険に加入していること。
(5)	事故があった場合、報告およびその後の対策を本連盟に提出すること。
2	本連盟加盟団体以外の諸団体、法人、個人、申請書において下記事項について特定する： 競技部門（例：ロード、トラック、マウンテンバイク、BMX、シクロクロス、トライアル、室内自転車競技、パラサイクリング、サイクリング、フリア・オール）
(2)	競技種目（例：フンデイレース、ステージレース、クロスカン트리、ダウンヒル、サッカー、フィギュア等）
(3)	大会名称
(4)	開催場所
(5)	開催日程
(6)	競技者カテゴリ(男子/女子、エリート、ジュニア、マスターズ、ユース)
(7)	大会のクラス(UCI登録、全国大会、地域大会、都道府県内大会等)
	提出書類： 主催者の代表者および連絡先の詳細 主催者の法的地位を明らかにする書類(会社定款、登記簿本、決算公告等) 大会実施計画書 大会収支予算書・前年大会の収支決算書 (必要に応じ)大会警備計画書・安全対策計画書 テクニカルガイド(案)
(1)	安全対策： 本連盟が推奨する安全対策を講じること。
(2)	大会運営に関する危険に関して有効な保険に加入していること。
(3)	事故があった場合、報告およびその後の対策を本連盟に提出すること。
第5条	(登録申請期日)
1	本連盟の加盟団体
2	当該年度の前年度1月31日までに登録申請を行うこと。 本連盟の加盟団体以外の諸団体、法人、個人。



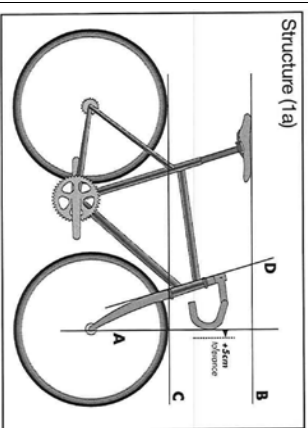
(財)日本自転車競技連盟競技規則集改訂事項一覧表

案項	2011年版	2012年版
第5章 自転車およびオートバイ		
第16条 (トラック・レーサーおよびロード・レーサー)	1.原則 (3)ライセンス保持者が自ら選択した装備を使用したため発生した結果については、UCI および JCF は何ら責任を負うものではなく、また、その装備の欠陥もしくは不適合性についても何ら責任を負うものではない。 ライセンス保持者は、競技において使われた、製造者によって与えられた構材をどのような点においても改変する権限は与えられていない。 (4)競技者が競技に参加することができたという事実は決して UCI または JCF 側の責任を生むものではない；コミセール、代行者あるいは UCI または JCF の組織によって実行される機材の検査は、純粋なスポーツ目的の適合性に限られている。必要であれば、チーム・コミセールの適合性あるいは UCI 自体あるいはその代理人の要請により、レース後に、機材および材料の検査が実施される。	(トラック・レーサーおよびロード・レーサー) 原則 ライセンス保持者が自ら選択した装備を使用したため発生した結果については、UCI および JCF は何ら責任を負うものではなく、また、その装備の欠陥もしくは不適合性についても何ら責任を負うものではない。 ライセンス保持者は、競技において使われた、製造者によって与えられた構材をどのような点においても改変する権限は与えられていない。 (4)競技者が競技に参加することができたという事実は決して UCI または JCF 側の責任を生むものではない；コミセール、代行者あるいは UCI または JCF の組織によって実行される機材の検査は、純粋なスポーツ目的の適合性に限られている。必要であれば、チーム・コミセールの適合性あるいは UCI 自体あるいはその代理人の要請により、レース後に、機材および材料の検査が実施される。
3. 自転車		
(2)技術の詳細	異なることを述べている場合を除き、以下の事項は、ロード競技、トラック競技およびシクロクロスに使用する自転車に適用する。	異なることを述べている場合を除き、以下の事項は、ロード競技、トラック競技およびシクロクロスに使用する自転車に適用する。
d)構造	①第 16 条 3.(2)d)②を適用する以外の競技において(構造(1))図を見よ。手を支える位置以下に明示する範囲にない：上限、サドル座面(B)を通る水平面；下限、前後輪(これらは同径である)の上端を通る水平線(C)；後方は操舵軸(D)そして前方は 5cm の許容差を以って前車軸を通る垂直線(構造(1))図を見よ。この(A)については、スプリント、ケイリン、チーム・スプリントに出場する競技者の自転車には適用しないが、前車軸を通る垂直線より 10cm 以上前に出でてはならない。	①第 16 条 3.(2)d)②を適用する以外の競技においては、伝統的形狀のハンドルバーのみが使用できる(構造(1))図を見よ。ハンドルバーは以下に明示する範囲にない：上限、サドル座面(B)を通る水平面；下限、前後輪(これらは同径である)の上端を通る水平線(C)；後方は操舵軸(D)そして前方は 5cm の許容差を以って前車軸を通る垂直線(構造(1))図を見よ。この(A)については、スプリント、ケイリン、チーム・スプリントに出場する競技者の自転車には適用しないが、前車軸を通る垂直線より 10cm 以上前に出でてはならない。
①	第 16 条 3.(2)d)②を適用する以外の競技において(構造(1))図を見よ。手を支える位置以下に明示する範囲にない：上限、サドル座面(B)を通る水平面；下限、前後輪(これらは同径である)の上端を通る水平線(C)；後方は操舵軸(D)そして前方は 5cm の許容差を以って前車軸を通る垂直線(構造(1))図を見よ。この(A)については、スプリント、ケイリン、チーム・スプリントに出場する競技者の自転車には適用しないが、前車軸を通る垂直線より 10cm 以上前に出でてはならない。	第 16 条 3.(2)d)②を適用する以外の競技においては、伝統的形狀のハンドルバーのみが使用できる(構造(1))図を見よ。ハンドルバーは以下に明示する範囲にない：上限、サドル座面(B)を通る水平面；下限、前後輪(これらは同径である)の上端を通る水平線(C)；後方は操舵軸(D)そして前方は 5cm の許容差を以って前車軸を通る垂直線(構造(1))図を見よ。この(A)については、スプリント、ケイリン、チーム・スプリントに出場する競技者の自転車には適用しないが、前車軸を通る垂直線より 10cm 以上前に出でてはならない。
②	ハンドルバーの下限(C)(前後輪の上端を通る水平線)は、身体形態上の理由で必要な場合には下方に拡張できる。これらの理由により、規定より寸法の小さい自転車が必要であると考えられる競技者は、ライセンス・コントロール時にコミセール・パネルに申告しなければならない。	ハンドルバーの下限(C)(前後輪の上端を通る水平線)は、身体形態上の理由で必要な場合には下方に拡張できる。これらの理由により、規定より寸法の小さい自転車が必要であると考えられる競技者は、ライセンス・コントロール時にコミセール・パネルに申告しなければならない。
③	ハンドルバーに付くブレーキ操作部は、二つのレバー保持部からなる。これは、レバー保持部の上に置いた手でレバーを引いてブレーキを 작동できなければならない。	ハンドルバーに付くブレーキ操作部は、二つのレバー保持部からなる。これは、レバー保持部の上に置いた手でレバーを引いてブレーキを 작동できなければならない。

ならない。二者択一的使用をしやすくするいかなる保持部の延長および変形も禁止する。  
ブレーキと変速機操作の複合機構は承認されている。  
スレート/トラットなハンドルバーの使用は認められない。



ない。二者択一的使用をしやすくするいかなる保持部の延長および変形も禁止する。  
ブレーキと変速機操作の複合機構は承認されている。  
スレート/トラットなハンドルバーの使用は認められない。



③構造に加えあるいは一体化した。空気抵抗を減じ、あるいは減少させる効果を持つもの。あるいは人為的に推進力を促進するもの。たとえば保護スクリュー、紡錘形のフェアリング等のいかなる装置も禁止する。  
保護スクリューとは、自転車構成物の空気抵抗を減す目的の風防あるいは風除けの設計の効果を与える固定された構成要素と、定義する。

構造に加えあるいは一体化した。空気抵抗を減じ、あるいは減少させる効果を持つもの。あるいは人為的に推進力を促進するもの。たとえば保護スクリュー、紡錘形のフェアリング等のいかなる装置も禁止する。  
保護スクリューとは、自転車構成物の空気抵抗を減す目的の風防あるいは風除けの効果を与える固定された構成要素と、定義する。  
飲料ボトルはフレームの内側に取付けられるものとし、フレーム内側でダウソおよびシートチューブ上におみ設置することしかできず、フレームに統合することはできない。競技中に使用するボトル断面の最大寸法は10cm、最小寸法4cmとする。その容量は最小400mlで最大800mlとする。

飲料ボトルはフレームの内側に取付けられるものとし、フレーム内側でダウソおよびシートチューブ上におみ設置することしかできず、フレームに統合することはできない。競技中に使用するボトル断面の最大寸法は10cm、最小寸法4cmとする。その容量は最小400mlで最大800mlとする。

第7章 ロード・レーシング・コース

第24条 (インデイクイデリアルロード・レーシング・サーキット)  
ロード・レーシングを競技の一部をサーキットにおいて行う場合、以下の条件で行う。  
2 (1)サーキットの周長は最小3kmとする。  
(2)サーキットの周回数:  
① 3kmから 5kmのサーキットの場合、最多3周  
② 5kmから 8kmのサーキットの場合、最多5周  
③ 8kmから 10kmのサーキットの場合、最多8周  
(3)サーキット・レーシングにおいては、そのレーシングの最終スタート・ゴールにおいてのみ、5kmから8kmの周回路における周回数を8周以上に延長する。この場合、サーキットでの合計走行距離は100kmを超えてはならない。  
(インデイクイデリアルロード・レーシング・サーキット)ロード・レーシングを競技の一部をサーキットにおいて行う場合、以下の条件で行う。  
2 (1)サーキットの周長は最小3kmとする。  
(2)サーキットの周回数:  
① 3kmから 5kmのサーキットの場合、最多3周  
② 5kmから 8kmのサーキットの場合、最多5周  
③ 8kmから 10kmのサーキットの場合、最多8周  
(3)サーキット・レーシングにおいては、そのレーシングの最終スタート・ゴールにおいてのみ、5kmから8kmの周回路における周回数を5周を超えてよい。この場合、サーキットでの合計走行距離は100kmを超えてはならない。

第8章 競技種目

第27条 (トラック・レーシング種目) 3. ウォールドカッター種目 ① 男子	(トラック・レーシング種目) ウォールドカッター種目(※の非オアシピック種目はすべてウォールドカッターでは実施しない) 男子
スプリント ケイリン チーム・スプリント 4km チーム・パースシュート(団体追抜競走) オムニアム ポイント・レーシング(予選15km/決勝30km)	スプリント ケイリン チーム・スプリント 4km チーム・パースシュート(団体追抜競走) オムニアム ポイント・レーシング(予選15km/決勝30km)

第一級公認審判員 検定評価項目・基準

種目	100	60	30	40	20	40	20
チーム・パースシュート(※)	100	60	30	40	20	40	20
ロード・レーシング	50	30	20	20	20	20	20
トラック・レーシング	50	30	20	20	20	20	20
オムニアム	50	30	20	20	20	20	20
ポイント・レーシング	50	30	20	20	20	20	20
競走の合計	150	100	90	60	60	40	60
チーム・パースシュート	20	15	10	10	0	0	0
トラック・レーシング	15	10	15	10	10	10	10
オムニアム	100	60	0	0	0	0	0
ポイント・レーシング	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
競走の合計	190	115	80	70	50	70	50

検定決定	科目	配点
1	共通事項	100
2	競技種目ごとの規則に関する事項(ロード・トラッキングの場合は各100)	200
	合計	300

検定決定	科目	配点
1	審判員としての心構え、道具の準備	30
2	競技規則の知識、理解度	30
3	業務の実践的遂行能力、経験	30
4	審判団とのコミュニケーション能力、ならびにリーダーシップ	30
5	一般取得後の目的意識、意欲	30
	総合評価	150

主催者登録規程(新規導入)

第1条	第2条	第3条
1	1	2
2	2	2

(主催者登録)  
財団法人日本自転車競技連盟(以下「本連盟」という)の競技規則および諸規則の下に競技大会を主催する者ならびにUCI規則の下に日本国内において競技大会を主催する者は、この主催者登録規程の定めるところにより、本連盟が登録を認めた主催者(主催者のカテゴリー)でなければならず、  
主催者のカテゴリーは以下のとおりとする。  
本連盟の加盟団体、  
本連盟の加盟団体、  
本連盟の加盟団体(日本学生自転車競技連盟、全日本実業団自転車競技連盟、全国高等学校体育連盟自転車競技専門部、日本プロフェッショナルサイクリスト協会)に分けられる。  
加盟団体には、その領域において実施する競技大会を主催するライセンスを与える。  
本連盟の加盟団体以外の諸団体、法人、個人、  
加盟団体以外の諸団体、法人、個人には、その主催しようとする競技大会または競技大会シリーズごとに主催するライセンスを与える。  
(登録申請手続き)  
競技者登録申請者は、申請書に必要事項を記載し、必要書類を添えて本連盟あてに登録申請手続きを行うものとする。  
本連盟は、前項により登録申請書を受け、主催者としての認可が適当であると判断したときは、申請者に対して別に定める競技大会のカテゴリーおよびクラスに応じた登録料を請求する。

<p>28. pour avoir utilisé deux personnes pour informer son équipe / coureur for using two persons to give information to the team / rider チーム競技者へ情報を伝えるために2人の人を使った</p> <p>26. qualifié pour les ..... et absent au départ sans justification qualified to ..... but did not start without justification に参加資格を得たが、正当な理由なくスタートしなかった</p>	<p>INTERVENTION OF STAFF スタッフの介入</p> <p>28 for using two persons to give information to the team / rider チーム競技者へ情報を伝えるために2人の人を使った</p> <p>ABSENCES 欠場</p> <p>26 qualified to ..... but did not start without justification に参加資格を得たが、正当な理由なくスタートしなかった</p>
--	--

### 競技者登録規程

<p>第4条 (カテゴリ(種別)) 登録競技者はプロフェッショナル(以下「プロ」とい う)、アマチュア(以下「アマ」という)、ビギナーに 区分し、性別によって、男・女に分類する。 カテゴリ: ビギナー(区分: "B")</p> <p>(1) カテゴリ, プロ, アマ以外の競技者。 (2) 当該暦年中に 16 歳以下の競技者は原則とし てすべてビギナー登録とする。 (3) 本連盟または加盟団体の実施する競技会に 参加するときは、本連盟競技者規程、競技規 則および大会特別規則を順守しなければなら ない。</p>	<p>(カテゴリ(種別)) 登録競技者はプロフェッショナル(以下「プロ」とい う)、アマチュア(以下「アマ」という)、ビギナーに 区分し、性別によって、男・女に分類する。 カテゴリ: ビギナー(区分: "B")</p> <p>(1) カテゴリ, プロ, アマ以外の競技者。 (2) 当該暦年中に 16 歳以下の競技者は原則とし てすべてビギナー登録とする。 (3) 本連盟または加盟団体の実施する競技会に 参加するときは、本連盟競技者規程、競技規 則および大会特別規則を順守しなければなら ない。</p> <p>競技別の競技実績によるクラス分け マウンテンバイク ● <b>カテゴリ登録資格設定(競技レベル別カテゴリ)</b> 男子エキ 3) 2011年度ナショナル・ポイント スタート (男子スポーツ)1-50位まで スバート</p>
--	--

### 日本自転車競技連盟ランキング制度

<p>8. マウンテンバイク(MTB) (2) ポイントの集計とランキングの公表 ① 年間を通じて、すべての公認大会を対象としてク ロスカントリー、ダウンヒルそれぞれ上位者にポイ ントが与えられる。 ② <u>ジャパンシリーズ</u>においては各カテゴリを基準 に、全日本選手権大会においては、UCI規則の 年齢カテゴリーにて競技を行い、各参加クラス(ジュ ニア、U23、シニア、エリート、マスター)での順位 に依じたポイントを受けられる。 ③ このランキングは翌年度のカテゴリ昇降格の基 準となる。</p>	<p>年間を通じて、すべての公認大会を対象としてク ロスカントリー、ダウンヒルそれぞれ上位者にポイ ントが与えられる。 このランキングは翌年度のカテゴリ昇降格の基準 となる。</p>
--	---

### ライセンス種類別講習カリキュラム最低時間配分基準

講習項目	1級		2級		3級		チームライセンス レベル4以上	
	1 TRARR	2 その他の 競技部門	1 TRARR	2 その他の 競技部門	1 TRARR	2 その他の 競技部門	1 TRARR	2 その他の 競技部門
共通事項に関する講義	5.0	3.0	3.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
競技者としての自転車 競技の運営/指導								
大会の企画/準備/運営								
スポーツ的安全性とコンチ ンゲン								
競技と規則/手続								
審判員/コメンテーターと観 衆における心理/指導 (公認審判員)								

<p>スクラッチ・レース(予選 7.5km/決勝 15km) 4km インディヴィデュアル・パーシユート(個人追抜競 走) 1km タイムトライアル マデイン(予選 20km/決勝 40km)</p> <p>② 女子 スプリント ケイリン チーム・スプリント 3km チーム・パーシユート(団体追抜競走) オムニアム ポイント・レース(予選 10km/決勝 20 km) スクラッチ・レース(予選 5km/決勝 10km) 3km インディヴィデュアル・パーシユート(個人追抜競 走) 500m タイムトライアル</p> <p>4. 本連盟または加盟団体の主催するトラック競技大会 において、ジュニアの競技者が使用する自転車のア 比をジュニア男子 7.13m, ジュニア女子 7.02m に制 限する。また、15 歳未満は 6.10m に制限する。</p>	<p>※スクラッチ・レース(予選 7.5km/決勝 15km) ※4km インディヴィデュアル・パーシユート(個人追抜 競走) ※1km タイムトライアル ※マデイン(予選20km/決勝40km) 女子 スプリント ケイリン チーム・スプリント 3km チーム・パーシユート(団体追抜競走) オムニアム ※ポイント・レース(予選 10km/決勝 20 km) ※スクラッチ・レース(予選 5km/決勝 10km) ※3km インディヴィデュアル・パーシユート(個人追抜 競走) ※500mタイムトライアル 【J】本連盟または加盟団体の主催するトラック競技大 会において、ジュニアについて、使用する自転車のア 比を、男子、女子とも 7.93m に制限する。さらに16 歳以下(U17)の競技者は 7.01m, 14 歳以下(U15) は 6.10m, 12 歳以下(U13)は 5.66m に制限する。</p> <p>(ロード・レース種目) 使用できる機材 ジュニアにおいては、使用する自転車のギア比を、男 子、女子とも 7.93m に制限する。【J】ただし、16 歳以下 (U17)の競技者は 7.01m, 14 歳以下(U15)は 6.10m, 12 歳以下(U13)は 5.66m に制限する。 下記の場合に除き、競技者によるあるいは競技者との 無線通信その他の遠隔通信のみならず、これらのた めに使用することのできる機器の所持は禁止される。 ・タイムトライアル競技</p>
<p>第28条 (ロード・レース種目) 使用できる機材 ジュニアにおいては、使用する自転車のギア比を、男 子、女子とも 7.93m に制限する。ただし、17 歳未満の 競技者は 7.01m, 15 歳未満は 6.10m, 13 歳未満は 5.66m に制限する。 下記の場合に除き、競技者によるあるいは競技者との 無線通信その他の遠隔通信のみならず、これらのた めに使用することのできる機器の所持は禁 止される。 → 2011 年中、 a. 世界競技日程の大会 b. 女子ロード・レースの大会 ・ タイムトライアル競技</p> <p>③ 上記の 2→3の場合において、安全な通信および情報 システム(「イアフォン」)は許可され、下記の条件の下に競技 の安全を損なわない通信および情報システ ムを使用してよい。 - 無線機の出力は 5 ワットを超えないこと; - 通信の目的範囲は競技により占有される空間に限 られること; - その使用は、競技者と監督および同チームの競技 者間のやり取りに限られること。 こうしたシステムの使用は、関連法律条項と 倫理と 決定における競技者の自由を尊重した、思慮深さと道 理に合ったものであることを条件とする。</p>	<p>(ロード・レース種目) 使用できる機材 ジュニアにおいては、使用する自転車のギア比を、男 子、女子とも 7.93m に制限する。【J】ただし、16 歳以下 (U17)の競技者は 7.01m, 14 歳以下(U15)は 6.10m, 12 歳以下(U13)は 5.66m に制限する。 下記の場合に除き、競技者によるあるいは競技者との 無線通信その他の遠隔通信のみならず、これらのた めに使用することのできる機器の所持は禁止される。 ・タイムトライアル競技</p> <p>上記の場合において、安全な通信および情報システム (「イアフォン」)は許可され、下記の条件の下に競技 の安全を損なわない通信および情報システムを使用 してよい。 - 無線機の出力は 5 ワットを超えないこと; - 通信の目的範囲は競技により占有される空間に限 られること; - その使用は、競技者と監督および同チームの競技 者間のやり取りに限られること。 こうしたシステムの使用は、関連法律条項と 倫理と 決定における競技者の自由を尊重した、思慮深さと道 理に合ったものであることを条件とする。</p>
<p>第31条 (BMX種目) オリエンティック種目 1. 男子 2. 女子 3. チャンピオンシップ・レベル スタンダード・バインクル エリート男子 エリート女子 ジュニア男子</p>	<p>(BMX種目) オリエンティック種目 男子 女子 チャンピオンシップ・レベル スタンダード 20 インター・バインクル エリート男子 エリート女子 ジュニア男子</p>

<p>ジュニア女子 — 17 &amp; 18 歳</p> <p>エリート男子タイムトライアル — 19 歳以上</p> <p>エリート女子タイムトライアル — 19 歳以上</p> <p>ジュニア男子タイムトライアル — 17 &amp; 18 歳</p> <p>ジュニア女子タイムトライアル — 17 &amp; 18 歳</p> <p>チャレンジャーレベル</p> <p>① スタンダード・バイシクル(車輪径 20") ホーイズ — 5&amp;6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16 歳 カールズ — 5 - 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16 歳 男子 — 17 歳 - 24 歳, 25 歳 - 29 歳, 30 歳以上 女子 — 17 歳以上 (3 カテゴリ)</p> <p>② クルサー(車輪径 24") ホーイズ/男子 - 12 才以下, 13-14,15-16,17-24,25-29,30-34,35-39,40-44,45 歳以上 (9 カテゴリ) カールズ/女子-12才以下-13-14-15-16-17-24-25-29-30-34-35-39-40-44-45歳以上(9 カテゴリ)</p> <p>4. <u>ワスターズ・レベル</u> 男子 — 30 歳以上 (1 カテゴリ) ワスターズは、チャレンジャー-24 インチでも競技することが認められる。</p>	<p>ジュニア女子 — 17 &amp; 18 歳</p> <p>エリート男子タイムトライアル — 19 歳以上</p> <p>エリート女子タイムトライアル — 19 歳以上</p> <p>ジュニア男子タイムトライアル — 17 &amp; 18 歳</p> <p>ジュニア女子タイムトライアル — 17 &amp; 18 歳</p> <p>チャレンジャーレベル</p> <p>スタンダード <u>20 インチ</u>・バイシクル(車輪径 20") ホーイズ — 5&amp;6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16 歳 カールズ — 5 - 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16 歳 男子 — 17 歳 - 24 歳, 25 歳 - 29 歳, 30 歳以上 女子 — 17 歳以上 (1 カテゴリ)</p> <p>クルサー-24 インチ・バイシクル(車輪径 24") ホーイズ/男子 - 12 才以下, 13-14,15-16,17-24,25-29,30-34,35-39,40,44,45 歳以上 (9 カテゴリ) カールズ/女子-16歳以下-17-29 歳, 30 歳以上 (3 カテゴリ)</p> <p>ワスターズ・レベル 男子 — 30 歳以上 (1 カテゴリ), 20 インチのみ。 ワスターズは、チャレンジャー-24 インチでも競技することが認められる。</p>
<p><b>第 10 章 異議の申立て</b></p> <p>第 39 条 (異議申立ての制限時間)</p> <p>異議申立ては、下記の制限時間内に行う。</p> <p>1. 競技者の資格、予選結果、競技者の組合せ、服装・機材または競技参加の正当性に対する異議申立てをする場合は、競技開始前に口頭で供託金なしで行うことができる。</p> <p>2. ロード・レースにおける異議申立ては、フィニッシュ制限時刻または最後の競技者のフィニッシュ後、30分以内提出しなければならない。タイムセールのそれ以前の決定あるいは順位に対する異議申立ては、決定が下されあるいは結果が公表されてから30分以内に提出しなければならない。スティー・ジョーシの順位に関する異議申立ては、次のスティー・ジョーシの順位に提出しなければならない。</p> <p>3. トラック・レースにおける異議申立ては、上記の30分を10分に短縮する。競技者あるいはタイムセールの下した決定に対する異議申立ては、その決定が伝達され、あるいはその競技が終了してから10分以内にタイムセールのレベルに提出されなければならない。</p>	<p><b>大会特別規則で異議申立てを規定されている場合。</b></p> <p>異議申立ては、下記の制限時間内に行う。</p> <p>競技者の資格、予選結果、競技者の組合せ、服装・機材または競技参加の正当性に対する異議申立てをする場合は、競技開始前に口頭で供託金なしで行うことができる。</p> <p>ロード・レースにおける異議申立ては、フィニッシュ制限時刻または最後の競技者のフィニッシュ後、30分以内提出しなければならない。タイムセールのそれ以前の決定あるいは順位に対する異議申立ては、決定が下されあるいは結果が公表されてから30分以内に提出しなければならない。スティー・ジョーシの順位に関する異議申立ては、次のスティー・ジョーシの順位に提出しなければならない。</p> <p>トラック・レースにおける異議申立ては、上記の30分を10分に短縮する。競技者あるいはタイムセールの下した決定に対する異議申立ては、その決定が伝達され、あるいはその競技が終了してから10分以内にタイムセールのレベルに提出されなければならない。</p>
<p><b>第 11 章 競技大会の開催および準備</b></p> <p>第 41 条 (競技大会・競技日程)</p> <p>3. (国際競技大会の開催申請) 競技大会主催者は本連盟に毎年6月31日までに、世界あるいは大陸競技日程に登録されるべき競技大会を申請する。 本連盟は、UCI と当該大陸連盟に、前年の6月15日までに申請書を提出する。スタートタイムスケジュールはこの期限を当該スケジュールの前日の12月15日とす。</p>	<p>(競技大会・競技日程)</p> <p>(国際競技大会の開催申請) 競技大会主催者は本連盟に、世界あるいは大陸競技日程に登録されるべき競技大会を申請する。 本連盟は、UCI と当該大陸連盟に、競技部門ごとに UCI の指定する期限までに申請書を提出する。 (4) この申請が受理された場合、その競技大会は現行の日程に譲りする日に仮登録される。この競技大会は、UCI 代表により、主催者負担で監督される。</p>

<p>adelaide</p> <p>14. pour faute flagrante et volontaire contre... for deliberate and flagrant foul against...</p> <p>15. pour avoir provoqué la chute de son adversaire par provocation la chute de son adversaire for causing the crash of his/her opponent</p> <p>16. pour avoir gêné son adversaire for having blocked an opponent</p> <p>17. pour retard au départ for being late at the start-line</p> <p>18. pour présenter son vélos à la ligne de sortie for presenting his/her bicycle at the start-line</p> <p>19. pour geste incorrect for incorrect gestures</p> <p>20. pour comportement incorrect for incorrect behaviour</p> <p>21. pour avoir poussé son adversaire for pushing his/her rival</p> <p>22. pour empouner son vélos for empuing his/her bicycle</p> <p>23. pour comportement incorrect envers un Commissaire for incorrect behaviour or disrespect towards an official</p> <p>24. pour comportement incorrect hacia un commissario for incorrect behaviour or disrespect towards an official</p> <p>25. pour avoir levé la main en guise de protestation for protest with hands off/handlebar</p> <p>26. pour réaliser gestes de proteste levantando las manos del manillar for realizing gestures of protest raising the hands of the handlebar</p>	<p>14. . . . . に対する故意、またはあからさまな違反</p> <p>15. 相手競技者の落車の原因となった</p> <p>16. 相手競技者の走行をブロックした</p> <p>17. 相手競技者を押した</p> <p>18. 相手競技者を押した</p> <p>19. 相手競技者を押した</p> <p>20. 相手競技者を押した</p> <p>21. 相手競技者を押した</p> <p>22. 相手競技者を押した</p> <p>23. 相手競技者を押した</p> <p>24. 相手競技者を押した</p> <p>25. 相手競技者を押した</p> <p>26. 相手競技者を押した</p> <p>27. 抗議のためにハンドルバーから手を離した</p> <p>28. 抗議のためにハンドルバーから手を離した</p> <p>29. 抗議のためにハンドルバーから手を離した</p>
<p>18. pour avoir porté un seal dorsard for wearing only one number</p> <p>19. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>20. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>21. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>22. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>23. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>24. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>25. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>26. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>27. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>28. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p> <p>29. pour avoir porté un seul dossard for wearing only one number</p>	<p>18. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>19. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>20. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>21. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>22. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>23. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>24. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>25. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>26. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>27. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>28. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p> <p>29. ポチ・ナンバーを1枚のみ付けた</p>
<p>22. pour port de publicite sur le dos du maillot for carrying publicity on the back of the racing jersey</p> <p>23. pour port de publicite sur le dos du maillot for carrying publicity on the back of the racing jersey</p> <p>24. pour port de publicite sur le dos du maillot for carrying publicity on the back of the racing jersey</p> <p>25. pour port de publicite sur le dos du maillot for carrying publicity on the back of the racing jersey</p> <p>26. pour port de publicite sur le dos du maillot for carrying publicity on the back of the racing jersey</p> <p>27. pour port de publicite sur le dos du maillot for carrying publicity on the back of the racing jersey</p> <p>28. pour port de publicite sur le dos du maillot for carrying publicity on the back of the racing jersey</p> <p>29. pour port de publicite sur le dos du maillot for carrying publicity on the back of the racing jersey</p>	<p>22. 公式式英中の不適切な服装広告</p> <p>23. 公式式英中の不適切な服装広告</p> <p>24. 公式式英中の不適切な服装広告</p> <p>25. 公式式英中の不適切な服装広告</p> <p>26. 公式式英中の不適切な服装広告</p> <p>27. 公式式英中の不適切な服装広告</p> <p>28. 公式式英中の不適切な服装広告</p> <p>29. 公式式英中の不適切な服装広告</p>
<p>29. pour insuffisance de matériel de rechange au départ for not being ready with extra wheels or other equipment at the start</p> <p>30. pour insuffisance de matériel de rechange au départ for not being ready with extra wheels or other equipment at the start</p> <p>31. pour insuffisance de matériel de rechange au départ for not being ready with extra wheels or other equipment at the start</p> <p>32. pour insuffisance de matériel de rechange au départ for not being ready with extra wheels or other equipment at the start</p> <p>33. pour insuffisance de matériel de rechange au départ for not being ready with extra wheels or other equipment at the start</p>	<p>29. 相手競技者の落車の原因となった</p> <p>30. 相手競技者の落車の原因となった</p> <p>31. 相手競技者の落車の原因となった</p> <p>32. 相手競技者の落車の原因となった</p> <p>33. 相手競技者の落車の原因となった</p>

<p>表 (仏・英・西・和)</p> <p>1.2 : トラック・レース違反行為に関する用語</p> <p>2. 他のすべてのチームから検査者が無作為に選出した 1 名の競技者</p>	<p>表 (英・和)</p> <p>1.2 : トラック・レース違反行為に関する用語表</p> <p>2. 他のすべてのチームから DCO が無作為に選出した 1 名の競技者</p>
<p>A. (フランス語) (英語) (スペイン語) (日本語)</p> <p>AVERTISSEMENT ou WARNING or Reprimand 警告または警告</p> <p>B. AMENDE FINE 罰金</p> <p>C. (D/C) DECLASSMENT RELEGATION 降格</p> <p>D. (D/C) DISQUALIFICATION 失格</p>	<p>A. WARNING B. FINE C. RELEGATION D. DISQUALIFICATION</p> <p>警告 罰金 降格 失格</p>
<p>1. pour avoir quitté sa ligne pendant le sprint final</p> <p>for not holding his/her line during the final sprint</p> <p>ファイナル・スプリントにおいて自身のラインを保持しない</p> <p>2. pour avoir roulé sur la zone bleu lors du sprint</p> <p>for riding on the blue band during the sprint</p> <p>スプリントにおいてブルーバンド上を走行する</p> <p>3. pour passage volontaire sur la zone bleu au cours de l'épreuve</p> <p>for deliberately riding on the blue band during the race</p> <p>レース中、ブルーバンド上を故意に走行する</p> <p>4. pour ne pas avoir tenu sa ligne dans les 200 derniers mètres de l'épreuve</p> <p>for not having held his/her line during the last 200 meters of the race</p> <p>レース最後の200メートルで、自身のラインを保持しない</p> <p>5. pour manoeuvre illicite, faite pour empêcher son adversaire de passer</p> <p>for irregular movement to prevent his opponent from passing</p> <p>相手競技者の進路を妨げるための反則的な動き</p> <p>6. pour manoeuvre dangereuse dans le dernier virage</p> <p>for dangerous riding in the final bend</p> <p>最終コーナーでの危険な走行</p> <p>7. pour manoeuvre dangereuse au cours de l'épreuve</p> <p>for dangerous riding during the race</p> <p>レース中の危険な走行</p> <p>8. pour être entré dans le caloir des sprinters alors que son adversaire s'y trouvait déjà</p> <p>for entering the sprinter's lane when the opponent was already there</p> <p>相手競技者がすでにスプリンターレーンにいるときに、スプリンターレーンに進入した</p> <p>9. pour s'être rabattu vers l'intérieur alors que son concurrent s'y trouvait déjà</p> <p>for moving down towards the inside of the track when a rival was already there</p> <p>対戦者が既にトラックの内側にいるときに、そこへ降りていった</p> <p>10. pour s'être rabattu à la corde obligeant ainsi son adversaire à sortir de la piste</p> <p>for moving down towards the inside of the track and forcing other competitor off the track</p> <p>トラックの内側に降りていき、他の競技者を走路外へ押し出した</p> <p>11. pour avoir tassé l'adversaire dans le but de le ralentir</p> <p>for crowding his/her opponent with the intention of causing him to slow down</p> <p>相手競技者を減速させる意図をもって、押し込んだ</p> <p>12. l'exéneur de la piste</p> <p>for moving outward with the intention of forcing the opponent to go up</p> <p>相手競技者を強制的に上へ押し上げることを意図し、外側へ動いた</p> <p>13. pour s'être rabattu trop rapidement après avoir dépassé son adversaire</p> <p>for going down too quickly after overtaking his/her opponent</p> <p>相手競技者を追い抜いた後、過早に前に入り込んだ</p>	<p>MOVEMENTS OF RIDERS ON THE TRACK</p> <p>トラック上での競技者の行動</p> <p>1. for not holding his/her line during the final sprint</p> <p>ファイナル・スプリントにおいて自身のラインを保持しない</p> <p>2. for riding on the blue band during the sprint</p> <p>スプリントにおいてブルーバンド上を走行する</p> <p>3. for deliberately riding on the blue band during the race</p> <p>レース中、ブルーバンド上を故意に走行する</p> <p>4. for not having held his/her line during the last 200 meters of the race</p> <p>レース最後の200メートルで、自身のラインを保持しない</p> <p>5. for irregular movement to prevent his opponent from passing</p> <p>相手競技者の進路を妨げるための反則的な動き</p> <p>6. for dangerous riding in the final bend</p> <p>最終コーナーでの危険な走行</p> <p>7. for dangerous riding during the race</p> <p>レース中の危険な走行</p> <p>8. for entering the sprinter's lane when the opponent was already there</p> <p>相手競技者がすでにスプリンターレーンにいるときに、スプリンターレーンに進入した</p> <p>9. for moving down towards the inside of the track when a rival was already there</p> <p>対戦者が既にトラックの内側にいるときに、そこへ降りていった</p> <p>10. for moving down towards the inside of the track and forcing other competitor off the track</p> <p>トラックの内側に降りていき、他の競技者を走路外へ押し出した</p> <p>11. for crowding his/her opponent with the intention of causing him to slow down</p> <p>相手競技者を減速させる意図をもって、押し込んだ</p> <p>12. for moving outward with the intention of forcing the opponent to go up</p> <p>相手競技者を強制的に上へ押し上げることを意図し、外側へ動いた</p> <p>13. for going down too quickly after overtaking his/her opponent</p> <p>相手競技者を追い抜いた後、過早に前に入り込んだ</p>

<p>(4) この申請は、前年の6月16日までに大陸連合に提出しなければならない。</p> <p>この申請が受理された場合、その競技大会は現行の日程に調和する日に仮登録される。この競技大会は、UCI代表により、主催者負担で監督される。</p>	<p>第43条 (公認競技大会)</p> <p>公認競技大会は、本連盟ならびに加盟団体の主催する競技大会で、次の要件を備え、本連盟が定める年間競技日程に記載されているものをいう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>参加する競技者が本連盟またはUCIの加盟連盟に属するか、UCIライセンスを所持する競技者であること。</li> <li>本連盟競技規則によって競技が行われること。</li> <li>本連盟競技規則第21条(自転車競技場)、第23、24、26条(ロード・コース)で競技が行われること。(競輪を開催する競輪場は、距離測定を行うことによって公認競技場に準じるものとみなす)。</li> <li>競技担当役員は、本連盟公認審判員で構成する(最少3名の2級以上を含む)。大会規模および分類によって、本連盟競技規則第46条～51条および53条～62条に準じて構成する。</li> <li>記録即時認定競技大会は本連盟競技規則第24章(記録公認)による。</li> <li>主催者は、JCF が設定した締切日までに、少なくとも次のデータ(適用するものがあれば)に合う専門的資料を提出しなければならない。</li> </ol>	<p>(公認競技大会)</p> <p>公認競技大会は、本連盟ならびに加盟団体、および本連盟発行の主権者ライセンスを持つ個人または法人が主催する競技大会で、次の要件を備え、本連盟が定める年間競技日程に記載されているものをいう。</p> <p>参加する競技者が本連盟またはUCIの加盟連盟に属するか、UCIライセンスを所持する競技者であること。</p> <p>本連盟競技規則(第14章トラックレース、第15章ロードレース、第16章シクロクロス、第17章マウンテンバイク、第18章室内自転車競技、第19章BMX、第20章トライアル、第21章パラサイクリング)によって競技が行われること。</p> <p>トラック競技においては、本連盟競技規則第21条(自転車競技場)、ロード競技においては第23、24、26条(ロード・コース)に従った競技会場で競技が行われること。(競輪を開催する競輪場は、距離測定を行うことによって公認競技場に準じるものとみなす)。</p> <p>競技担当役員は、本連盟公認審判員で構成する(最少3名の2級以上を含む)。大会規模および分類によって、本連盟競技規則第46条～51条および53条～62条に準じて構成する。</p> <p>記録即時認定競技大会は本連盟競技規則第24章(記録公認)による。</p> <p>主催者は、JCF が設定した締切日までに、少なくとも次のデータ(適用するものがあれば)に合う専門的資料を提出しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該レースの特別規則;これらの規則は国内連盟が許可するまで発行されない。</li> <li>競技のプロگرامおよびスケジュール</li> <li>招待競技者名(競技者、クラブ、チームのカテゴリ)</li> <li>エントリー方法、ゼッケン番号の配布</li> <li>賞金一覧表</li> <li>旅費、宿泊、食事に關する財務条件</li> <li>飲食物補給の準備(方法、品名・数、補給場所等)</li> <li>参加者および荷物運送車輛の準備</li> <li>トラックまたはサーキット(スタートおよびゴールも含む)の詳細図</li> <li>薬物検査場、事務局、プレス室等の設定</li> <li>警察、警備および医療施設、写真判定および計時の設置</li> <li>放送施設とアナウンサー</li> </ul>
<p>第13章 総務および競技担当役員の任務</p> <p>第59条 (トラック・レース競技担当役員の任務)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コミセール・パネル・メンバー</li> <li>判定員は、トラックの外側の、トラック全体を見渡せる静かで隔離された場所に位置しなければならない。彼はチーフ・コミセールと直接連絡できる手段を与えられなければならない。レース中の出来事をスロー再生することができるビデオ・システムも利用できること。</li> </ol>	<p>(トラック・レース競技担当役員の任務)</p> <p>コミセール・パネル・メンバー</p> <p>判定員は、トラックの外側の、トラック全体を見渡せる静かで隔離された場所に位置しなければならない。彼はチーフ・コミセールと直接連絡できる手段を与えられなければならない。レース中の出来事をスロー再生することができるビデオ・システムも利用できること。</p>	<p>本連盟は必率に応じて公認する競技大会に別に定める公認料を課すことができる。</p>

<p>きることが望ましい。</p> <p>8 タイム・キーパー(計時・時間管理)</p> <p>③ 手動計時については、以下の要領による。手動計時の場合は、3人で計時することを原則とする。計時主任(3人のタイム・キーパーのうち一人が兼ねることができる)は3人の記入した計時用紙をまとめて、次のペース毎の手順で正式時間を算出し、主任用計時記録用紙に記入する。</p> <p>①手順① 3人の計時結果が一致した場合はそれを正式時間とする。</p> <p>②手順② 2人の計時結果が一致した場合はそれを正式時間とする。</p> <p>③手順③ 3人の計時結果が一致した場合それはそれを正式時間とする。</p> <p>2人の計時結果が一致した場合はそれを正式時間とする。</p> <p>それそれの計時結果が異なる場合には、かき離れた二つを除き、2つの計時結果の中央値を正式時間とする。</p> <p>計測値→A B C 正式時間</p>	<p>が望ましい、このシステムは、チーム・コミニセルが非公開で同じ映像を見ることを可能にするために、ライニッシュ・ライスの近くに置かれたテレビ・スクリーンと接続することが望ましい。</p> <p>タイム・キーパー(計時・時間管理)</p> <p>(J)手動計時については、以下の要領による。手動計時の場合は、3人で計時することを原則とする。計時主任(3人のタイム・キーパーのうち一人が兼ねることができる)は3人の記入した計時用紙をまとめて、次の手順で正式時間を算出し、主任用計時記録用紙に記入する。</p> <p>3人の計時結果が一致した場合はそれを正式時間とする。</p> <p>2人の計時結果が一致した場合はそれを正式時間とする。</p> <p>それそれの計時結果が異なる場合には、3つの計時結果の2番目の値を正式時間とする。</p> <p>計測値→A B C 正式時間</p>
<p><b>第14章 トラック・レース規則</b></p> <p>第63条 (トラック・レース) (競技者の順守事項)</p> <p>1. 競技者は、いかなる共謀、他の競技者の行動を妨げ競技結果に影響を与える動作を慎まなければならない。さらに、トラック上にいる間は、競技者は常に自転車をしつかりとコントロール下におき、ハンドル(あるいは延長部)上に少なくとも片手を置いていなければならない。</p> <p>特に罰則を明記されていない違反やスポーツ精神に反する違反は、付表3に規定する罰金とは別に、その違反の重大性によって、黄旗で示される警告あるいは赤旗で示される当該競技の失格をもたらす。競技者は失格の前に警告を1回だけ受け、それらの場合に、コミニセルは違反競技者のセツケン番号を同時に示す。警告および失格は同一種目内でのみ適用する。</p> <p>競技において競技者が降格された場合、その違反の重大性、故意であるか、あるいはその影響度により、降格には警告も含まれる。2回目の警告あるいは3回目の降格を受けた競技者は失格となる。各機</p>	<p>(トラック・レース) (競技者の順守事項)</p> <p>競技者は、いかなる共謀、他の競技者の行動を妨げ競技結果に影響を与える動作を慎まなければならない。さらに、トラック上にいる間は、競技者は常に自転車をしつかりとコントロール下におき、ハンドル(あるいは延長部)上に少なくとも片手を置いていなければならない。</p> <p>特に罰則を明記されていない違反やスポーツ精神に反する違反は、付表3に規定する罰金とは別に、その違反の重大性によって、黄旗で示される警告あるいは赤旗で示される当該競技の失格をもたらす。競技者は失格の前に警告を1回だけ受け、それらの場合に、コミニセルは違反競技者のセツケン番号を同時に示す。警告および失格は同一種目内でのみ適用する。</p> <p>競技において競技者が降格された場合、その違反の重大性、故意であるか、あるいはその影響度により、降格には警告も含まれる場合もある。2回目の警告あるいは3回目の降格を受けた競技者は失格となる。各</p>

<p>る。</p> <p>国民体育大会のロード・コース又は1周20km程度の周回コースであることを原則とする。</p> <p><b>付表 10-1: アンチドーピング検査対象競技者の選定基準</b></p> <p>①アンチドーピング委員会が特に指示しない場合は以下の基準による。</p> <p>1. <b>ワンデイ・レース(すべての競技)</b></p> <p>・ 一般規則</p> <p>1. 優勝者</p> <p>2. 検査音 DCO が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>・ <b>ハーフ・マラソン</b></p> <p>1. 第 1 ハーフ・マラソン・ステージの勝者</p> <p>2. 第 2 ハーフ・マラソン・ステージについて検査音が無作為に選出した 1 名ずつの競技者</p> <p>・ <b>チーム競技</b></p> <p>1. 優勝チームから検査音が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>2. 他のすべてのチームから検査音が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>2. <b>スリー・デイ・レース(プロローグを含むすべての競技)</b></p> <p>・ 一般規則</p> <p>1. スリー・デイの優勝者</p> <p>2. スリー・デイ終了時の総合順位の首位の競技者</p> <p>3. 検査音が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>・ <b>チーム・タイム・トライアルのステージ</b></p> <p>1. 優勝チームから検査音が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>2. スリー・デイ終了時の総合順位首位の競技者</p> <p>3. 他のすべてのチームから検査音が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>・ <b>ハーフ・マラソン</b></p> <p>1. 第 1 ハーフ・マラソン・ステージの優勝者</p> <p>2. 第 2 ハーフ・マラソン・ステージの優勝者</p> <p>3. 第 2 ハーフ・マラソン・ステージ終了時の総合順位首位の競技者</p>	<p>る。</p> <p>国民体育大会のロード・コース又は1周10km程度の周回コースであることを原則とする。</p> <p>ワンデイ・レース(すべての競技)</p> <p>・ 一般規則</p> <p>1. 優勝者</p> <p>2. 検査音 DCO が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>・ <b>ハーフ・マラソン</b></p> <p>1. 第 1 ハーフ・マラソン・ステージの勝者</p> <p>2. 第 2 ハーフ・マラソン・ステージについて DCO が無作為に選出した 1 名ずつの競技者</p> <p>・ <b>チーム競技</b></p> <p>1. 優勝チームから DCO が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>2. 他のすべてのチームから DCO が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>2. <b>スリー・デイ・レース(プロローグを含むすべての競技)</b></p> <p>・ 一般規則</p> <p>1. スリー・デイの優勝者</p> <p>2. スリー・デイ終了時の総合順位の首位の競技者</p> <p>3. DCO が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>・ <b>チーム・タイム・トライアルのステージ</b></p> <p>1. 優勝チームから DCO が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>2. スリー・デイ終了時の総合順位首位の競技者</p> <p>3. 他のすべてのチームから DCO が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>・ <b>ハーフ・マラソン</b></p> <p>1. 第 1 ハーフ・マラソン・ステージの優勝者</p> <p>2. 第 2 ハーフ・マラソン・ステージの優勝者</p> <p>3. 第 2 ハーフ・マラソン・ステージ終了時の総合順位首位の競技者</p>
<p>3. <b>タイム・トライアルレース</b></p> <p>・ 個人</p> <p>1. 上位 3 名の競技者</p> <p>2. 検査音が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>・ <b>チーム</b></p> <p>1. 優勝チームから検査音が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>2. 第 2 位のチームから検査音が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>3. 無作為に選出された 4 チームのそれぞれから検査音が無作為に選出した各 1 名の競技者</p> <p>4. <b>トラックレース(すべての競技種目)</b></p> <p>・ 個人</p> <p>1. 優勝者</p> <p>2. 検査音が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>・ <b>団体</b></p> <p>1. 優勝チームから検査音が無作為に選出した 1</p>	<p>タイム・トライアルレース</p> <p>・ 個人</p> <p>1. 上位 3 名の競技者</p> <p>2. DCO が無作為に選出した 2 名の競技者</p> <p>・ <b>チーム</b></p> <p>1. 優勝チームから DCO が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>2. 第 2 位のチームから DCO が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>3. 無作為に選出された 4 チームのそれぞれから DCO が無作為に選出した各 1 名の競技者</p> <p>トラックレース(すべての競技種目)</p> <p>・ 個人</p> <p>1. 優勝者</p> <p>2. DCO が無作為に選出した 1 名の競技者</p> <p>・ <b>団体</b></p> <p>1. 優勝チームから DCO が無作為に選出した 1</p>

	の違反: - ワンデイレース: 当該レースの最後まで車面を車列最後に下げる。 - ステージレース: 当該ステージの最後まで車面を車列最後に下げる。 同じステージまたは大会における3回目の違反: - チーム監督: 競技からの除外 - チーム: 車面を、復帰の可能性なしに、競技終了まで除外する	反: - ワンデイレース: 当該レースの最後まで車面を車列最後に下げる。 - ステージレース: 当該ステージの最後まで車面を車列最後に下げる。 同じステージまたは大会における3回目の違反: - チーム監督: 競技からの除外 - チーム: 車面を、復帰の可能性なしに、競技終了まで除外する	違反: - チーム監督: 100 ポイント以上の違反に該当する場合は、当該レースの最後まで車面を車列最後に下げる。 - ステージレース: 当該ステージの最後まで車面を車列最後に下げる。 - 競技者: 100 ポイント以上の違反に該当する場合は、当該レースの最後まで車面を車列最後に下げる。 同じステージまたは大会における3回目の違反: - チーム監督: 200 ポイント以上の違反に該当する場合は、当該レースの最後まで車面を車列最後に下げる。 - チーム: 車面を、復帰の可能性なしに、競技終了まで除外する	違反: - チーム監督: 100 ポイント以上の違反に該当する場合は、当該レースの最後まで車面を車列最後に下げる。 - ステージレース: 当該ステージの最後まで車面を車列最後に下げる。 - 競技者: 100 ポイント以上の違反に該当する場合は、当該レースの最後まで車面を車列最後に下げる。 同じステージまたは大会における3回目の違反: - チーム監督: 200 ポイント以上の違反に該当する場合は、当該レースの最後まで車面を車列最後に下げる。 - チーム: 車面を、復帰の可能性なしに、競技終了まで除外する
--	--	--	---	---

**付表 4-1: ロードレースのギア比制限**

ロードレースにおいてジュニア競技者に適用

男子・女子ジュニア	7.93 m	2000年1月1日より
47歳未満	7.01 m	2000年1月1日より
46歳未満	6.10 m	2000年1月1日より
43歳未満	5.66 m	2000年1月1日より

**付表 4-2: トラックレースのギア比制限**

(削除)

**付表 5-2: ロードレースのコースに関する基準事項**

1-1. インディヴィデュアル・ロードレースのコース  
その競技大会の特性を考慮し、町から町への片道コース、大きく1周して戻るコース、環状コースを複数回周回するコース、P字または逆P字型の折り返し点のあるコースを選択する。  
登坂路、降坂路とともに平坦な区間も含み、鉄道の踏切、鋭角のカーブ、断崖、降り坂の急カーブ等の注意箇所のない舗装道路とする。また、選手回通過時に全面交通規制ができることが望ましい。  
幅員は6m以上で、最後の1km地点からフィニッシュラインの後方100mまでは最小8mとし、10m以上であることが望ましく、視距離前後200m以上とする。ただし、道路外が直ちに建物、壁、側溝、崖等になっている場合は配慮する。フィニッシュ地点は平坦もしくは上り坂とする。  
また、1日ロードレースの場合は、スタート/フィニッシュが同一地点であることが望ましい。スタート/フィニッシュを含み、コースの各所に観衆が集りやすく、かつ競技の妨げにならないように設定する

6. 会に、コミセールは同時に違反競技者のゼッケンを示す。警告と失格は1特定種目のみと関連する。自転車を下りた競技者は、誰からの補助もなしに、自分の自転車を運搬、牽引または押して、競走を完了することができる。自転車を下りた競技者または自己の自転車から降りるためにトラックから外れた競技者は、別段の規定がない限り、再乗車する時に補助してもらったことができ、トラックから外れた地点から再出走する。

10A. 第16条および第17条への適合性において専用の測定器具を用いて自転車が検査された場合、コミセールはレース後に再検査を任意に再検査する権限を与えている。自転車あるいはボジションがこの規則に違反して変更されている場合は、この競技者は失格となる。

11A.

(J) 電子計時が実施されている大会のある種目において、1または複数の競技者について計時装置の不具合等により電子計時がなされた場合、その種目の順位の設定のために、その競技者についてのみ手動計時によるタイムを付与することができる。ただし、スタンディング・スタート種目においては、当該競技者の前後に出走した合計10名の競技者の計時における電子計時と手動計時の差の平均値により補正を行う。当該競技者の前または後に5名以上の出走者が居る場合、コミセールが決定した少なくとも5名以上の競技者を対象として差算の計算を行う。フライング・スタート種目においては手動計時タイムをそのまま採用する。手動計時となった記録は公認記録の対象とならない。  
【J】競技中止は、ピストル2発により示す。ただしUCI規則においては以下の種目を除く: 1kmタイムトライアル、500mタイムトライアル、500mタイムトライアル、500mタイムトライアル、500mタイムトライアル、500mタイムトライアル

第66条 (スプリント)  
2. 200mタイムトライアルによりスプリント・トーナメントに進出する競技者を決定する。スプリント対戦に進出する人数は、24名、18名、16名、12名を選ぶ方法がある(付表1参照)。4名、12名を選ぶ方法を標準的とし、それ以外の場合は大会特別規則で明示しなければならぬ。  
この選出のための200mタイムトライアルのスタート順は、世界選手権大会においては、前年の上位8名が成績の逆順で最後に、その他の競技者は抽選による。

8. トラックの内側に位置する競技者は、追い越されない限り、トラック反対側の中央線に達するまで先行しなければならない。各レースにおいて2回までのスタートが許される。スタンディング・スタートは最長30秒までとし、これを過ぎた場合、先行競技者はスタートにより競技を続けるよう指示される。彼が従わなかった場合、スタートは、競技を中止し、他の競技者にその対戦の勝利を宣言する。3名または4名による競技の場合、降格競技者を除外して、ただちに2名または3名により再発走とする。

機会に、コミセールは同時に違反競技者のゼッケンを示す。警告と失格は1特定種目のみと関連する。自転車を下りた競技者は、誰からの補助もなしに、自分の自転車を運搬、牽引または押して、競走を完了することができる。自転車を下りた競技者または自己の自転車から降りるためにトラックから外れた競技者は、別段の規定がない限り、再乗車する時に補助してもらったことができ、トラックから外れた地点から再出走し、落着あるいはトラップを離れた時点で占めていた位置に戻るものとする。

(J) 電子計時が実施されている大会のある種目において、1または複数の競技者について計時装置の不具合等により電子計時がなされた場合、その種目の順位の設定のために、その競技者についてのみ手動計時によるタイムを付与することができる。ただし、スタンディング・スタート種目においては、当該競技者の前後に出走した合計10名の競技者の計時における電子計時と手動計時の差の平均値により補正を行う。当該競技者の前または後に5名以上の出走者が居る場合、コミセールが決定した少なくとも5名以上の競技者を対象として差算の計算を行う。フライング・スタート種目においては手動計時タイムをそのまま採用する。手動計時となった記録は公認記録の対象とならない。  
【J】競技中止は、ピストル2発により示す。ただしUCI規則においては以下の種目を除く: 1kmタイムトライアル、500mタイムトライアル、500mタイムトライアル、500mタイムトライアル、500mタイムトライアル、500mタイムトライアル

(スプリント)  
2. 200mタイムトライアルによりスプリント・トーナメントに進出する競技者を決定する。スプリント対戦に進出する人数は、24名、18名、16名、12名を選ぶ方法がある(付表1参照)。4名、12名を選ぶ方法を標準的とし、それ以外の場合は大会特別規則で明示しなければならぬ。  
この選出のための200mタイムトライアルのスタート順は、世界選手権大会においては、前年の上位8名が成績の逆順で最後に、その他の競技者は抽選による。  
【J】1/4決勝を「回戦制」とするか、2回戦制とするかについては大会特別規則で明示しなければならぬ。  
全日本選手権においては1/4決勝を2回戦制で行う。トラックの内側に位置する競技者は、追い越されない限り、トラック反対側の中央線に達するまで少なくとも歩行的ペースで先行し相手競技者に追い越さるまで歩行的な牽制をしなければならない。各レースにおいて2回までのスタートが許される。スタンディング・スタートは最長30秒までとし、これを過ぎた場合、先行競技者はスタートにより競技を続けるよう指示される。彼が従わなかった場合、スタートは、競技を中止し、他の競技者にその対戦の勝利を宣言する。3名または4名による競技の場合、降格競技者を除外して、ただちに2名





(競技機材)  
第28条項1②、④に準拠して、無線通信装置の使用はすべてのパラサイクリング競技において禁止されており、安全上の理由から特別許可が認められる。

**第23章 アンチドーピング・コントロール**  
(競技後検査セクション)

(競技後検査セクション)における競技者への告知  
いすれの競技者(競技を棄権した競技者を含む)も、競技後に自分が検査を受けよう選定されるかもしれないことを承知していない。予一検体採取に準拠するよう要請されたいかを否かを自分確認する責任がある。  
この目的で、競技者は、フィニッシュあるいはレース失格直後に、競技者に通知するためにシャペロンが待機する場所を確認し、そこに行かなければならない。  
シャペロンが待機場所に不在の場合、競技者は直ちにドーピング・コントロール施設に行かなければならない。シャペロンの不在は、競技者が適切な時間に行かない、シャペロンが適切な時間に出頭しないことを容赦するものではない。

(11) 集団スタート・ロード・レースの場合、主催者およびドーピング・コントロール・オフィサーは、検体採取に出頭要請される競技者のリストも、フィニッシュ・ラインならびにドーピング・コントロール施設の入口に、優勝者がフィニッシュする前に掲示することを、確実にしなければならない。  
競技者は、レースのフィニッシュまたは棄権の直後に、競技者に通知するためにシャペロンが待機している場所を確認し、そこに行かなければならない。  
シャペロンが待機場所不在の場合、競技者は直ちに、リストが掲示してある場所を確認して行くか、あるいはドーピング・コントロール施設に行かなければならない。シャペロンの不在は、競技者が適切な時間に行かない、シャペロンが適切な時間に出頭しないことを容赦するものではない。

**第24章 記録の公認**  
第103条 (公認する日本記録の種類)

個人種目

個人種目	男子		女子	
	ジュニア	ユニア	ジュニア	ユニア
フライング・スタート	○	○	○	○
スラッシュ・スタート	○	○	○	○
2km	○	○	○	○
3km	○	○	○	○
4km	○	○	○	○
アワー・レコード	○	○	○	○
競艇券アワード	○	○	○	○
ハルバーマンズ・テルニニ-運送の競艇券アワード	○	○	○	○
1-ワーター・マズ	○	○	○	○

(ケイリン)  
第71条 5. スタートは、ペーサーがスプリングター・レーンにおいて中央線に接近する時に行う。抽選で1番となった競技者は他競技者が追走しない場合、直ちに少なくとも最初の周はペーサーの後ろにつかなければならず、これをこなわなかった場合直ちにレースを中止し、その競技者を失格とする。2番となった競技者が直ちにペーサーを追走しなければならぬ。

6. 一人または複数の競技者が、ペーサーがトラックを離れる前にペーサーの後輪後端を追い抜いた場合、競技を中止し、失格とされる違反競技者を除外して再スタートとする。

(チーム・スプリント)  
第72条 2. (判断)

(マデイン)  
第73条 14. チームの2競技者がともに落車した場合、そのチームに1000 mまたはこれよりも近い周回数までのニュートラリゼーションを与える。トラックへの復帰にあたり、チームの1名はチームが事故前に占めていた集団内の位置に戻る。  
ニュートラリゼーションを与えられたチーム・メイトは、最後の1kmの間にトラックに戻ることはできない。チームは事故時に獲得または失っていた周回数とポイントによって順位付けられる。

(エリミネイション・レース)  
第77条 5. エリミネイション・レース各スプリント後、後輪後端が最後にフィニッシュ・ライオンを通過した競技者は除外される。一人または複数の競技者が、スプリントの間に追抜かれ、あるいは棄権した場合は、彼らは次回スプリントにおける除外競者となる。  
ある場合において、コミセールはスプリントの最後尾の競技者でなくとも除外を決定できる(例えば、フル・バンドを走行した競技者)。チーム・コミセールは、ジャッジ・レフリーおよびその他のコミセールからの情報に基づいて、誰を除外するかを最終決定をする責任者である。  
すべての場合において、どの競技者を除外するかは、除外スプリント後にバックストレートのパージュー

ンを与えられた競技者は最下位に、事故前に獲得したポイントに従って順位づけられる。  
(ケイリン)

スタートは、ペーサーがスプリングター・レーンにおいて中央線に接近する時に行う。抽選で1番となった競技者は他競技者が追走しない場合、直ちに少なくとも最初の周はペーサーの後ろにつかなければならず、これをこなわなかった場合直ちにレースを中止し、その競技者を失格とする。2番となった競技者が直ちにペーサーを追走しなければならぬ。  
競技者たちはペーサーがトラックを離れる時まで、ペーサーの直後についていなければならない。  
一人または複数の競技者が、ペーサーがトラックを離れる前にペーサーの後輪後端を追い抜いた場合、競技を中止し、失格とされる違反競技者を除外して再スタートとする。

(チーム・スプリント)  
順位決定戦においてスタートしないチームがあった場合、新たなチームを補充しない。スタートしなかったチームは4位とする。  
数字がスタートしない場合、予選ラウンドのタイムに従い、4位およびその上の順位をつける。走行しない理由がコミセール・パネルに承認されない場合、タイムは失格とされ、その順位は空位とされる。スタートについては、決定戦の組合せを決めるタイムを得るために単独で走行しなければならない。  
(マデイン)

チームの2競技者がともに落車した場合、そのチームに1000 mまたはこれよりも近い周回数までのニュートラリゼーションを与える。トラックへの復帰にあたり、チームの1名はチームが事故前に占めていた集団内の位置に戻る。  
ニュートラリゼーションを与えられたチーム・メイトは、最後の1kmの間にトラックに戻ることはできない。チームは事故時に獲得または失っていた周回数とポイントによって順位付けられる。

(エリミネイション・レース)  
各スプリント後、後輪後端が最後にフィニッシュ・ライオンを通過した競技者は除外される。一人または複数の競技者が、スプリントの間に追抜かれ、あるいは棄権した場合は、彼らは次回スプリントにおける除外競者となる。  
ある場合において、コミセールはスプリントの最後尾の競技者でなくとも除外を決定できる(例えば、フル・バンドを走行した競技者)。チーム・コミセールは、ジャッジ・レフリーおよびその他のコミセールからの情報に基づいて、誰を除外するかを最終決定をする責任者である。  
すべての場合において、どの競技者を除外するかは、除外スプリント後にバックストレートのパージュー

<p>第78条 (速度競走)</p> <p>5. 先頭責任未了者の順位は、未了者中、与えられた先頭責任完了に近い競技者を優先とし、同数の先頭責任を取得した競技者間および未取得の競技者間の順位は、フライング着順による。 (注)2本、2本の先頭責任回数で2本、1本取得し左競技者と3本、1本を取得した競技者は、同じ本数を取得した扱いとする。</p>	<p>トロインを競技者達が通過する以前に、決定され通告されなければならぬ、この時まで決定がなされないなら、次回スプリントまでどの競技者も除外されない。 除外された競技者は直ちにトラックを離れなければならない、<u>その競技の最下位に降格される</u>。判定しかねる場合は、除外を行わない、除外の判定をうけた競技者は、直ちに走路の内側に入って競走を中止する</p>
<p>第15章 <b>ロードレース規則</b></p> <p>第84条 (ロードレース)</p> <p>3. (出走確認) (1) スタート前に、全競技者は、コミセールの監督の下に署名を行う。 競技者チーム監督は、スタート・ゾーンに署名する場所に集合しなければならぬ、集合地点に、スタート時刻のすぐくなくとも15分前までに集まり準備しなければならぬ、スタート・ゾーンの署名は、集合地点を離れる時刻の10分前に終了する。 競技者はスタート・ゾーンに署名しなければならぬ、さもなければレースから除外される。</p>	<p>トロインを競技者達が通過する以前に、決定され通告されなければならぬ、この時まで決定がなされないなら、次回スプリントまでどの競技者も除外されない。 除外された競技者は直ちにトラックを離れなければならない、<u>失格とされる</u>。競技者が直ちにトラックを離れない場合、チーム・コミセールはこの競技者を除外するためにレースをニュートライズすることを決定できる。 判定しかねる場合は、除外を行わない、除外の判定をうけた競技者は、直ちに走路の内側に入って競走を中止する</p>
<p>第85条 (故障時の修理)</p> <p>18. 競技中の位置にかかわらず、競技者が故障修理を受ける時は、集団の後方で停止状態でなければならぬ、走行中の車面からチェーンに給油することは禁止する。</p>	<p>(ロードレース) (出走確認) スタート前に、全競技者は、コミセールの監督の下に署名を行う。 競技者チーム監督は、スタート・ゾーンに署名する場所に集合しなければならぬ、集合地点に、スタート時刻のすぐくなくとも15分前までに集まり準備しなければならぬ、スタート・ゾーンの署名は、集合地点を離れる時刻の10分前に終了する。 競技者はスタート・ゾーンに署名しなければならぬ、さもなければレースから除外される。失格とされる。しかし、特定の状況の特別な出来事の場合に、コミセールのペナルティは、問題の競技者をスタートさせることができる。</p>
<p>第87条 (インテイクイデュアル(個人)タイムトライアル・ロードレース)</p> <p>5. 各競技者は、各自のスタート予定時刻の15分前までに、署名チェック・ポイントに本人自らが自転車点検を受け、出走する装備で来なければならない。</p>	<p>(インテイクイデュアル(個人)タイムトライアル・ロードレース) 各競技者は、各自のスタート予定時刻の15分前までに、署名チェック・ポイントに本人自らが自転車点検を受け、出走する装備で来なければならない。その場合、追加検査を行うことができる。</p>
<p>第88条 (スター・ジュニア)</p>	<p>(スター・ジュニア)</p>

<p>第20章 <b>トライアル競技規則</b></p> <p>第96条 (トライアル規則)</p> <p>2. 競技規則 (10) 順位、競技結果 (3) 同順位の場合(2名またはそれ以上の競技者が合計点において同点)、下記の優先順に順位付けを行う: 1.ゼロ・ポイントで通過したセクションが<u>少ない</u>順; 2.1ポイント、2ポイントで通過したセクションが<u>多い</u>順、<u>etc.</u> 3. 準決勝における成績順; 4. 準決勝が行われない競技で表彰台順位にかかわる場合、コミセールの指定による決定戦・セクションを通過しなければならぬ、決定戦・セクションにおいて同点の場合はそのタイムによって決定する。 何人かの競技者が5点であった場合、そのゾーンにおいてもっとも長く走行した者を勝者とする。 5. 表彰台順位以外において同点の場合、総競技時間により決定する。</p>	<p>(トライアル規則) 競技規則 順位、競技結果 同順位の場合(2名またはそれ以上の競技者が合計点において同点)、下記の優先順に順位付けを行う: 1.ゼロ・ポイントで通過したセクションが<u>多い</u>順; 2.1ポイント、2ポイントで通過したセクションが<u>多い</u>順、<u>etc.</u> 3. 準決勝における成績順; 4. 準決勝が行われない競技で表彰台順位にかかわる場合、コミセールの指定による決定戦・セクションを通過しなければならぬ、決定戦・セクションにおいて同点の場合はそのタイムによって決定する。 何人かの競技者が5点であった場合、そのゾーンにおいてもっとも長く走行した者を勝者とする。 5. 表彰台順位以外において同点の場合、総競技時間により決定する。</p>
<p>第21章 <b>パラサイクリング</b></p> <p>第97条 (パラサイクリング)</p> <p>7. UCI登録チームのメンバーであるプロフェッショナル競技者はタンデム・バイロットとして参加することはできない。 UCIプロチームあるいはUCIコンチネンタル・プロフェッショナル・チームのメンバーであった競技者は、タンデム・バイロットとして参加するまでに、契約を満了してから36ヶ月の待機期間を尊重しなければならぬ。この待機期間は、UCI規則(条項1.1.04)に記載されるその他のUCIチームのメンバーであった競技者については24ヶ月とする。 18歳以上の男子および女子の競技者は、下記競技大会(すべての種目を含み)のうちひとつに、所属する国内連盟から選抜されたことがないという条件の下に、タンデム・バイロットとして競技できる。 - UCI 世界選手権大会、オリンピック競技大会 - パラサイクリング競技大会に先立つ24ヶ月以内 - UCIワールドカップ、地域大会または選手権大会 - パラサイクリング競技大会に先立つ<u>少なくとも</u>36ヶ月以内</p>	<p>(パラサイクリング) (タンデム・バイロット) 競技者はタンデム・バイロットとして参加することはできない。 UCIプロチームあるいはUCIコンチネンタル・プロフェッショナル・チームのメンバーであった競技者は、タンデム・バイロットとして参加するまでに、契約を満了してから36ヶ月の待機期間を尊重しなければならぬ。この待機期間は、UCI規則(条項1.1.04)に記載されるその他のUCIチームのメンバーであった競技者については24ヶ月とする。 18歳以上の男子および女子の競技者は、下記競技大会(すべての種目を含み)のうちひとつに、所属する国内連盟から選抜されたことがないという条件の下に、タンデム・バイロットとして競技できる。 - UCI 世界選手権大会(マラソン・バイアスを除く)、オリンピック競技大会 - パラサイクリング競技大会に先立つ<u>少なくとも</u>36ヶ月以内 - UCI ワールドカップ、地域大会または大體選手権大会 - パラサイクリング競技大会に先立つ<u>少なくとも</u>24ヶ月以内 盲人あるいは視覚障害者の各競技者は、UCI競技大会に最多1名のバイロットを認められる。 チーム監督は、氏名と登録番号を提示し、チーム・リールに参加する競技者の順番も含んでチームを構成しなければならぬ、順番は<u>H区区分の競技者が参加する競技終了後1時間以内</u>にチーム・コミセールに提出しなければならない、この順番はその後変更することができる。 (タンデム・バイロット) 競技は盲人・視覚障害者の男子、女子において行う。 タンデム・バイロットの予選タイムは200mを計測する。</p>
<p>16. チーム監督は、氏名と区分を提示し、チーム・リールに参加する競技者の順番も含んでチームを構成しなければならぬ、順番は競技前日の正午までにチーム・コミセールに提出しなければならない、この順番はその後変更することができる。</p>	<p>(タンデム・バイロット) 競技は盲人・視覚障害者の男子、女子において行う。</p>
<p>24. 競技は盲人・視覚障害者の男子、女子において行う。</p>	<p>(タンデム・バイロット) 競技は盲人・視覚障害者の男子、女子において行う。 タンデム・バイロットの予選タイムは200mを計測する。</p>

- ならない。オープンフェイス・ヘルメットは許可されない。
- 競技者が下記の保護具を着用することは強く推奨される。
  - 硬質の材料で作られた、背、ひじ、ひざおよび肩のプロテクター
  - 頸椎の保護具
  - その他
- 個人装備上の空力的付加物は禁止される。予選ラウンドおよび決勝のためにカメラの設置は、競技者は、危険性を排除するためにカメラの設置に責任がある。UCIは、TV製作会社の使用の場合のみ、決勝中におけるヘルメット・カメラの使用許可を決定できる。金屬/恒久的なカメラの取り付けは禁止され、テープあるいはベルクロのみ許可される。
- 自転車
  - (5) プレーキ
    - 競技にエントリーするすべての自転車は、有効な後輪プレーキを備えていなければならない。このプレーキは、足(コクステア)または手(キヤリパー・プレーキ)のいずれかで操作できるものである。
    - プレーキのいすねは、手(キヤリパー・プレーキ)のいずれか一方のみに取り付けられなければならない。このプレーキは、完全に取り囲みしっかりと保持するよう機械的に固定されたクリップによってプレーキに確実に固定されていなければならない。このプレーキは、レース中に操作は容易に解除され、レース後に操作は容易に解除されなければならない。
- 規則違反、ペナルティおよび異議申し立て
  - 規則違反
    - 故意の不法妨害
    - トラック再進入
- レース中にトラックを離れた競技者は、状況にかかわらず、直近の安全ポイントからコースに再侵入しなければならない。彼は他のいかなる競技者の進行を妨げたり利益を得るためにコースをカットしたりしてはならない。
- ペナルティ
  - 競技者はモトの最下位とされる
  - 競技者は、レースの実際のフィニッシュ順にかかわらず、最下位とされ、“降格”(REL)と記録される。
- 異議申し立て
  - 一般規則
    - あらゆるBMX大会において、競技者は、平穏の事項がいずれかについて、当該競技者が所属する国内連盟のチーム監督を通じて、チーム・コミセールに抗議を行うことができる。
    - 競技者のクラス分け
    - 競技者のスコアリング(成績)
  - 競技者による競技中の抗議は許されない。任にある競技者による競技中の抗議は、競技中に事件や違反があったレース・コミセールは、競技中に事件や違反があった場合、チーム・コミセールを通じて直ちに決定しな

- ない。オープンフェイス・ヘルメットは許可されない。競技者が下記の保護具を着用することは強く推奨される。
  - 硬質の材料で作られた、背、ひじ、ひざおよび肩のプロテクター
  - 頸椎の保護具
  - その他
- 個人装備上の空力的付加物は禁止される。予選ラウンドおよび決勝のためにカメラの設置は、競技者は、危険性を排除するためにカメラの設置に責任がある。UCIは、TV製作会社の使用の場合のみ、決勝中におけるヘルメット・カメラの使用許可を決定できる。金屬/恒久的なカメラの取り付けは禁止され、テープあるいはベルクロのみ許可される。
- 自転車
  - プレーキ
    - 競技にエントリーするすべての自転車は、有効な後輪プレーキを備えていなければならない。このプレーキは、手(キヤリパー・プレーキ)または手(キヤリパー・プレーキ)のいずれかで操作できるものである。
    - プレーキのいすねは、手(キヤリパー・プレーキ)のいずれか一方のみに取り付けられなければならない。このプレーキは、完全に取り囲みしっかりと保持するよう機械的に固定されたクリップによってプレーキに確実に固定されていなければならない。このプレーキは、レース中に操作は容易に解除され、レース後に操作は容易に解除されなければならない。
- 規則違反、ペナルティおよび異議申し立て
  - 規則違反
    - 故意の不法妨害
    - トラック再進入
- レース中にトラックを離れた競技者は、状況にかかわらず、直近の安全ポイントからコースに再侵入しなければならない。彼は他のいかなる競技者の進行を妨げたり利益を得るためにコースをカットしたりしてはならない。白線を横切った競技者は降格となる。競技者はそのモトでスタートした競技者数+2のポイントを受け、もし他競技者を妨げず、優位性を得なかった場合、降格は警告に変更できる。
- ペナルティ
  - 競技者はモトの最下位とされる
  - 競技者は、レースの実際のフィニッシュ順にかかわらず、最下位とされ、“降格”(REL)と記録される。競技者は、そのモトをスタートした合計競技者数より2多いポイントを受け、
- 異議申し立て
  - 一般規則
    - あらゆるBMX大会において、競技者は、スコアリング(成績)について、当該競技者が所属する国内連盟のチーム監督を通じて、チーム・コミセールに抗議を行うことができる。
    - 競技者のクラス分け
    - 競技者のスコアリング(成績)
  - 競技者による競技中の抗議は許されない。任にある競技者による競技中の抗議は、競技中に事件や違反があった場合、チーム・コミセールを通じて直ちに決定しな

<p>6. ポーナスは、下記により与える: (1) 中間スプリント回数: ・通常のステージ 最多2回 ・通常のステージ 最多3回 ポーナス: ・中間スプリント 6秒- 4秒- 2秒 ・フィニッシュ: 通常のステージ 12秒- 8秒- 4秒 通常のステージ 20秒- 12秒- 4秒 (チーム・タイムトライアル・ステージ) チーム・タイムトライアル・ステージは、競技の初めの1/3の期間に行われなければならない。 11. チーム・タイムトライアル・スタート順は、団体総合時間順位の逆順で行う。この順位付けを採用していない場合は、抽選による。</p>	<p>ポーナスは、下記により与える: 中間スプリント回数: ・通常のステージ 最多3回 ポーナス: ・中間スプリント 6秒- 4秒- 2秒 ・フィニッシュ: 通常のステージ 20秒- 12秒- 4秒 (チーム・タイムトライアル・ステージ) チーム・タイムトライアル・スタート順は、競技の初めの1/3の期間に行われなければならない。 11. チーム・タイムトライアル・スタート順は、団体総合時間順位の逆順で行う。この順位付けを採用していない場合は、抽選による。</p>
<p>13. (競技者の棄権) 競技を棄権した競技者は、そのステージ・レースが行われている期間に行われる他の競技に参加することはできない。これに違反した場合は、15日間の資格停止と、200~1000SFの罰金を科す。 しかしながら、9チーム代表の同意を得た競技者の要望監督またはチーム代表の同意を得た競技者の要望により、例外を認めることができる。 15. ロード・レース・ステージにおける最後の3km以内で落車し、フィニッシュ・ラインを横切ることができなかった場合、この競技者の順位はこのステージの最下位とし、その競技者は事故時に属していた集団と同タイムと認められる。 18. 9チーム代表の同意を得た競技者の要望により、例外を認めることができる。 最終ステージにおいてのみ、5kmから8kmの間回路上における回数を90回に延長する。</p>	<p>(競技者の棄権) 競技を棄権した競技者は、そのステージ・レースが行われている期間に行われる他の競技に参加することはできない。これに違反した場合は、15日間の資格停止と、200~1000SFの罰金を科す。 しかしながら、大会監督局とチーム・コミセールの協議後に、当該チーム監督またはチーム代表の同意を得た競技者の要望により、例外を認めることができる。 15. ロード・レース・ステージにおける最後の3km以内で落車し、フィニッシュ・ラインを横切ることができなかった場合、この競技者の順位は共に走行していた競技者集団の最下位とし、その競技者は事故時に属していた集団と同タイムと認められる。 最終ステージにおいてのみ、そのレースの最終ステージにおいてのみ、5kmから8kmの間回路上における回数を90回に延長する。</p>

<p>第16章 シクロクロス規則 第91条 (シクロクロス) (安全) 2. 少なくともフィニッシュ・ラインの手前100mから、50m 過ぎまで保護柵を設けなければならない。競技者が両方向に走行するコースの近接箇所は安全ネットにより分離されなければならない。使用される安全ネットには1 cm x 1 cmを超える開孔があつてはならない。 大観衆が予想される場合、コースの高難度箇所に、下記に示すような安全エリアを観客とコースの間に設けなければならない。 ゾーンA部分は最少75cm幅でなければならない。レースのスタートの5分前以降、レースの競技者以外のいかなる者もコースを走行してはならない。主催者は、コースに最少4箇所の観客用の横断箇所を設定しなければならない。横断箇所には2つの哨員を配置しなければならない。横断箇所には両側に立レース主催者は、競技および公式トレーニング時に、競技者と観客の安全を確保するために十分な立哨員を配置しなければならない。</p>	<p>(シクロクロス) (安全) 2. 少なくともフィニッシュ・ラインの手前100mから、50m 過ぎまで保護柵を設けなければならない。競技者が両方向に走行するコースの近接箇所は安全ネットにより分離されなければならない。使用される安全ネットには1 cm x 1 cmを超える開孔があつてはならない。 大観衆が予想される場合、コースの高難度箇所に、下記に示すような安全エリアを観客とコースの間に設けなければならない。 ゾーンA部分は最少75cm幅でなければならない。レースのスタートの5分前以降、レースの競技者以外のいかなる者もコースを走行してはならない。主催者は、コースに最少4箇所の観客用の横断箇所を設定しなければならない。横断箇所には2つの哨員を配置しなければならない。横断箇所には両側に立レース主催者は、競技および公式トレーニング時に、競技者と観客の安全を確保するために十分な立哨員を配置しなければならない。</p>
--	---

<p>15. コースには、競技者が自転車から降りることを余儀なくさせる人工の障害物を最多6個含むことができる。ひとつの障害物区間は80mを超えてはならず、その高さは40cmを超えてはならない。障害物区間の全合計長はコースの10%を超えてはならない。非自然の砂場は、最短40m、最長80mで最小幅6mとする。砂場は直線区間に位置し、その入口と出口は水平であることを要する。</p> <p>コースには厚板による障害物区間をひとつ含むことができる。この人工的障害物は、最短4m、最長6m間隔の2枚の木の厚板からなる。それらは全高にわたる隙間がなく、金属性のものであってはならない。障害物の高さは最高で40cm、幅はコース幅と同じとする。下り部分に階段を設定してはならない。</p>	<p>コースには、競技者が自転車から降りるような（しかし必ずしも降りることを要しない）人工の障害物を最多6個含むことができる。ひとつの障害物区間は80mを超えてはならず、その高さは40cmを超えてはならない。障害物区間の全合計長はコースの10%を超えてはならない。非自然の砂場は、最短40m、最長80mで最小幅6mとする。砂場は直線区間に位置し、その入口と出口は水平であることを要する。</p> <p>コースには厚板による障害物区間をひとつ含むことができる。この区間には上記の障害物の一部とみなされなければならない。この人工的障害物は、最短4m、最長6m間隔の2枚の木の厚板からなる。それらは全高にわたる隙間がなく、金属性を持たず、金属性のものであってはならない。障害物の高さは最高で40cm、幅はコース幅と同じとする。下り部分に階段を設定してはならない。</p>
<p>第17章 <b>マウンテンバイク規則</b></p> <p>第92条 (マウンテンバイク規則)</p> <p>2. クロスカントリー競技</p> <p>(1) レースの特性</p> <p>(5) クロスカントリー・エリミネーター - XCE</p> <p>メイン・イベント用のレース・チャンパーは、予選ラウンドの結果を基とし、予選ラウンド1位者を1番として開始し、割当てる。</p> <p>メイン・イベントは、付属書6および7、XCE 競技構成の表に見られるように、競技者グループを対戦させるエリミネーション・ヒートにより構成される。</p> <p>メイン・イベントの各レースは、最長3分間の4周ないし複数周とする。</p> <p>準決勝においてDNF、DSQあるいはDNSであった競技者は、スモール・フアインナルに参加できない。競技の最終順位は、下記の順のグループごとに作製する:</p> <p>I ヒッツ・フアインナルで競技した全競技者を順位付ける。</p> <p>II スモール・フアインナルで競技した全競技者を順位付ける。</p> <p>III 準決勝でDNF、DSQあるいはDNSであった競技者を順位付ける。</p> <p>IV その他の競技者の順位は、選んだラウンド、ラウンドにおける順位、そしてレース・チャンパーにより決定する。</p> <p>メイン・イベントの第1ラウンドでDNF、DSQあるいはDNSであった競技者は、順位付けを要しない。上記の各グループ内において、DNF競技者はDSQ</p>	<p>(マウンテンバイク規則)</p> <p>クロスカントリー競技</p> <p>レースの特性</p> <p>クロスカントリー・エリミネーター - XCE</p> <p>メイン・イベント用のレース・チャンパーは、予選ラウンドの結果を基とし、予選ラウンド1位者を1番として開始し、割当てる。</p> <p>メイン・イベントは、付属書6 および7、XCE 競技構成の表に見られるように、競技者グループを対戦させるエリミネーション・ヒートにより構成される。</p> <p>メイン・イベントの各レースは、最長3分間の4周ないし複数周とする。</p> <p>ヒートの順序:</p> <p>• 女子と同等の対戦システムになるまで男子を先にこなす。</p> <p>• 順位決定戦: 女子スモール・フアインナルに続き女子ヒッツ・フアインナルを行なう。</p> <p>• 男子スモール・フアインナルに続き男子ヒッツ・フアインナルを行なう。</p> <p>他の競技者の減速、落車あるいはコース逸脱の原因となる、押す、引くあるいは他の方法による故意の接触は許されず、これらによる行為は行犯者の失格(DSQ)に帰属する。</p> <p>準決勝においてDNF、DSQあるいはDNSであった競技者は、スモール・フアインナルに参加できない。競技の最終順位は、下記の順のグループごとに作製する:</p> <p>I <b>DSQ 競技者以外のヒッツ・フアインナルで競技した全競技者を順位付ける。</b></p>

<p>検査員 - 検査員は、練習中にすべての競技者の自転車および安全装備の検査を行って、本規則に適合していることを確認する責任を有する。</p> <p>2. <b>スタート・コンセーラ</b> - スタート・コンセーラは、各レースのスタートを準備する責任を有する。スタート・コンセーラは、スタートを動作させるほか、各レースのスタートが安全かつ公平に行われるようにするために必要かつ適切な行為を行う。スタート・コンセーラは、スタートの業務の実行を妨げる競技者にペナルティを科すように促すことができる。計時システムが利用される場合には、スタート・コンセーラは、スタートの準備が完了した後にスタート手帳が開始する前に準備できているかを確かめなければならない。</p>	<p>レース・オフィシャル - レース・オフィシャルは、トラックにおける競技者のふるまいを監視し、他の競技担当役員が注目しているトラックの状態を知らせる責任を有する。大会に必要なレース・オフィシャルの人数は、チーム・コンセーラが決定される。レース・オフィシャルは、トラックに沿って配置される。レース・オフィシャルは、目撃したあらゆる規則違反あるいは出来事を記録する。これらの記録は、チーム・コンセーラの要求により提出される。</p> <p>10. <b>観客のために</b> - オフィシャルの解散を行なうレース・オフィシャルは、UCI/JCFの利益に反するあらゆる事柄、あるいは、一般にBAAX競技に反するあらゆる事柄において論議することはできない。また、コース・オフィシャルは、レースの結果の予断を行ったり、自分が目撃したと思われる規則違反の母体性について述べたりすることはできない。</p>
<p>5. <b>レース・コンセーラ</b> - レース・オフィシャルは、トラックにおける競技者のふるまいを監視し、他の競技担当役員が注目しているトラックの状態を知らせる責任を有する。大会に必要なレース・オフィシャルの人数は、チーム・コンセーラが決定される。レース・オフィシャルは、トラックに沿って配置される。レース・オフィシャルは、目撃したあらゆる規則違反あるいは出来事を記録する。これらの記録は、チーム・コンセーラの要求により提出される。</p> <p>10. <b>観客のために</b> - オフィシャルの解散を行なうレース・オフィシャルは、UCI/JCFの利益に反するあらゆる事柄、あるいは、一般にBAAX競技に反するあらゆる事柄において論議することはできない。また、コース・オフィシャルは、レースの結果の予断を行ったり、自分が目撃したと思われる規則違反の母体性について述べたりすることはできない。</p>	<p>レース・オフィシャル - レース・オフィシャルは、トラックにおける競技者のふるまいを監視し、他の競技担当役員が注目しているトラックの状態を知らせる責任を有する。大会に必要なレース・オフィシャルの人数は、チーム・コンセーラが決定される。レース・オフィシャルは、トラックに沿って配置される。レース・オフィシャルは、目撃したあらゆる規則違反あるいは出来事を記録する。これらの記録は、チーム・コンセーラの要求により提出される。</p> <p>主権者により指定されるレース・オフィシャルは、コンセーラの補助のもとで、下記の業務に対する責任を担う:</p> <p>1. 大会の予定書の維持管理;</p> <p>2. 大会の規模に見合った人数のすべてのコンセーラと競技担当役員および運営スタッフの名簿作成および備成;</p> <p>3. 競技要請に必要な設備の準備;</p> <p>4. <b>トラックおよび他の真品の購入、展示および管理。</b></p> <p>検査</p> <p>衣服および安全装備</p> <p>検査</p> <p>公式練習の前や、競技大会などの開始前あるいはコース中で、装備が本規則に適合しているか否かを確認するために、競技者、競技者の自転車、ヘルメットならびに衣服について、チーム・オフィシャルによる検査を行う。UCIは、この検査において検査対象となりうるあらゆる自転車、衣服、安全装置あるいは他の装置のトラックに対する適合性に関して、いかなる主張およびまたは意見表明も行わない。</p> <p>ヘルメットおよび保護具</p> <p>ヘルメットは最短100cmのバイザーを装備するフルフェイス構造でなければならない。ヘルメット・ストラップはレース完了までの間確実に締められていなければならない。</p>
<p>7. 衣服および安全装備</p> <p>(1) 検査</p> <p>公式練習の前や、競技大会などの開始前あるいはコース中で、装備が本規則に適合しているか否かを確認するために、競技者、競技者の自転車、ヘルメットならびに衣服について、チーム・オフィシャルによる検査を行う。UCIは、この検査において検査対象となりうるあらゆる自転車、衣服、安全装置あるいは他の装置のトラックに対する適合性に関して、いかなる主張およびまたは意見表明も行わない。</p> <p>ヘルメット</p> <p>ヘルメットは最短100cmのバイザーを装備するフルフェイス構造でなければならない。ヘルメット・ストラップはレース完了までの間確実に締められていなければならない。</p>	<p>検査</p> <p>衣服および安全装備</p> <p>検査</p> <p>公式練習の前や、競技大会などの開始前あるいはコース中で、装備が本規則に適合しているか否かを確認するために、競技者、競技者の自転車、ヘルメットならびに衣服について、コンセーラによる検査を行う。UCIは、この検査において検査対象となりうるあらゆる自転車、衣服、安全装置あるいは他の装置のトラックに対する適合性に関して、いかなる主張およびまたは意見表明も行わない。</p> <p>ヘルメットおよび保護具</p> <p>ヘルメットは最短100cmのバイザーを装備するフルフェイス構造でなければならない。ヘルメット・ストラップはレース完了までの間確実に締められていなければならない。</p>

<p>3. 競技 (7) スタート 1. BMXレースのスタートにはボイス・ボックスを用いる。 ボイス・ボックスは、スタートの音の代わりとなる設備である。</p> <p>(9) フィニッシュ 1. 競技者は、その前輪タイヤがフィニッシュ・ラインの手前側の線を通る垂直面に接したときにフィニッシュとなる。</p> <p>4. 競技場 (8) 競技トラックのマーキング 競技トラックの境界を交差区間も含めて明確にマーキングしなければならない。</p> <p>5. 競技施設 (2) 観客者シート・エリア レースとレースの間に競技者が集まることのできる区域をトラックのステージング・エリアの近くに設け、明確に印をつける。</p> <p>(3) 検査車・計時システム・エリヤ 検査車・計時システム・エリヤの取付は状態および競技者の装備の検査のための区域を「ステージング・エリヤ」の近くに設ける。</p> <p>(4) アナウンス・エリア アナウンス・エリアおよびスコアボード・エリアに、これらのオフフィシャルがトラックを明確に障害物なしに見ることのできる区域を確保する。この区域は、トラックのレベルよりも高い位置にあることが好ましい。</p> <p>6. 競技役員 (2) コミセール・パネル チーフ・コミセールは、トラック全体を視野に収められる位置から管理する。</p> <p>(3) チーフ管理コミセール チーフ管理コミセールは、競技大会において全競技者の参加登録とクラス分けと、モト・シートの作成と掲示、全リザルト(中間および最終リザルト)の作成に責任を持たなければならない。チーフ管理コミセールは、当条項6.(7)に記載される十分な数の運営進行員に補佐されなければならない。</p> <p>(6) レース・テーブル・タ 大会の手定書の作成および整備; 2. 大会の規模に見合った人数の手定書のコミセールと競技担当役員および運営スタッフの名簿作成および編集; 3. 競技実施に必要な設備の準備; 4. トロフィーおよび他の賞品の購入・展示および授与。</p>	<p>い場合、これはチーフ・コミセールに懸せられる。</p> <p>競技 スタート BMXレースのスタートにはボイス・ボックス・スタート・タイミングシステムを用いる。</p> <p>フィニッシュ 競技者は、その前輪タイヤがフィニッシュ・ラインの手前側の線を通る垂直面に接したときにフィニッシュとなる。自転車と競技者が一緒にフィニッシュ・ラインを通過する必要がある。</p> <p>競技場 競技トラックのマーキング 競技トラックの境界を交差区間も含めて明確に白線でマーキングしなければならない。</p> <p>競技施設 チーム・エリア レースとレースの間に競技者が集まることのできる区域をトラックのステージング・エリアの近くに設け、明確に印をつける。 【削除】</p> <p>アナウンス・エリア アナウンス・エリア、これらのオフフィシャルがトラックを明確に障害物なしに見ることのできる区域を確保する。この区域は、トラックのレベルよりも高い位置にあることが好ましい。</p> <p>競技役員 コミセール・パネル チーフ・コミセールは、コミセール・パネルの最であり、他のコミセールを統率する。トラック全体を視野に収められる位置から管理する。</p> <p>コミセール・パネル・セクレタリ コミセール・パネル・セクレタリは、競技大会において全競技者の参加登録とクラス分けと、モト・シートの作成と掲示、全リザルト(中間および最終リザルト)の作成に責任を持たなければならない。コミセール・パネル・セクレタリは、当条項6.(7)に記載される十分な数の運営進行員に補佐されなければならない。</p> <p>スタート・コミセール スタート・コミセールは、各レースのスタートを指揮することについて責任があるものとす。スタートは、各レースが安全で公正なスタートが行われることを保証するために、スターティング・ゲートを操作し、必要で適切な任務を実行することを妨害する競技者を罰する。彼らの行動を行なうものとする。スタートは、どのようにチーフ・コミセールに進言することができると、タイミングシステムが利用される時に、スタートは最初に、スターティング・オフフィシャルとスタート・ゲートに來ていない競技者を確認し、タイミングシステム・オペレーターと彼の機器の用意が、レースのスタート手順を開始する前にできていなければならないことを確認しなければならない。</p> <p>役員/要員 1.</p>
--	--

<p>競技者より上に、DSQ競技者はDNS競技者より上におく。DNF=DSQ-あるいはDNSが複数いる場合、レース・ナンバーにより順位付けする。メイン・イベントに参加できなかつた競技者は、最終順位に含まれない。</p> <p>(5) 飲食料の補給- 補給/技術支援ゾーン 11. 補給/技術支援ゾーンに到着するためにコースを逆送することはできない。逆走した競技者は失格となる。</p> <p>3. ダウンヒル競技 (1) 競技の運営 4.</p> <p>(3) 衣服と保護具 4. 予選ラウンドおよび決勝においてヘルメット・カメラは許可されない。競技者は、危険性を排除するためにヘルメット・カメラの確実な固定に責任がある。JCFは、TV製作会社の使用の場合同様にのみ、決勝中におけるカメラの使用許可を決定できる。金属/恒久的なヘルメットカメラの取付け具は禁止され、テープあるいはベルクロのみ許可される。</p> <p>5. 競技中に赤旗が振られるのを見た競技者は、直ちに停止しなければならない。 停止した競技者は、落ちてフィニッシュ地点に進まなければならない。フィニッシュ・サインに再出走を要求して次の指示を待つ。 フォア・クロス競技 (2) 競技の運営 3. 予選ラウンドは、各競技者によるコースでの計時走行の形態をとる。予選参加者間同順位となった場合、直近のUCI個人4Xランキングにより順位差をつける。当該競技者のランキングがない場合、順位付けのために抽選する。予選ラウンドでDNF、DSQあるいはDNSであった競技者はメイン・イベントに参加できない。 競技者はスタート・リストで決められた順に、スタート・</p>	<p>ii DSQ 競技者以外のスモール・ファイナルで競技した全競技者を順位付けする。 iii 準決勝で DNF、DSQ あるいは DNS であった競技者を順位付けする。 iv その他の競技者の順位は、達したラウンド、ラウンドにおける順位、そしてレース・ナンバーにより決定する。 v <del>メイン・イベントの第1ラウンドで DNF、DSQ あるいは DNS であった競技者は順位外とする。</del> 上記の各グループ内において、DNF 競技者はDSQ 競技者より上に、DSQ 競技者はDNS 競技者より上に、DNF=DSQ-あるいはDNSが複数いる場合、レース・ナンバーにより順位付けする。 メイン・イベント第1ラウンドのDNFあるいはDNS競技者は順位外に一覧される。 メイン・イベントのDSQ競技者は順位外に一覧される。 メイン・イベントに参加できなかつた競技者は、最終順位に含まれない。 飲食料の補給- 補給/技術支援ゾーン 補給/技術支援ゾーンに到着するためにコースを逆送することはできない。逆走した競技者は失格となる。 補給/技術支援ゾーン内においてのみ、他競技者の妨害ならなければ競技者は後戻りしてよい。 ダウンヒル競技 競技の運営 最高タイムより100%以上遅い競技者は、第2リザルトにDNF(did not finish = フィニッシュせず)として一覧され、いかなるポイントも与えられない。この規則は、予選ラウンドと順位決定順に適用される。 例外的な状況下において、フィニッシュの最大許容時間制限はレース中に変更してよい。この決定は、技術代表との協議後にチーフ・コミセールよりなされる。 衣服と保護具 予選ラウンドおよび決勝においてカメラは許可されない。競技者は、危険性を排除するためにカメラの確実な固定に責任がある。JCFは、TV製作会社の使用の場合にのみ、決勝中におけるカメラの使用許可を決定できる。金属/恒久的なヘルメットカメラの取付け具は禁止され、テープあるいはベルクロのみ許可される。 競技中に赤旗が振られるのを見た競技者は、直ちに停止しなければならない。 停止した競技者は、落ちてフィニッシュ地点に進まなければならない。フィニッシュ・サインに再出走を要求して次の指示を待つ。 フォア・クロス競技 競技の運営 予選ラウンドは、各競技者によるコースでの計時走行の形態をとる。予選ラウンドにおいて同順位となった場合、直近のUCI個人4Xランキングにより順位差をつける。当該競技者のランキングがない場合、順位付けのために抽選する。予選ラウンドでDNF、DSQ あるいはDNSであった競技者はメイン・イベントに参加できない。 競技者はスタート・リストで決められた順に、スタート・</p>
--	--

トコミセールの指示によりスタートしなければならぬ。女子は男子の前にスタートする。予選ラウンドに使用するレーズ・ナンバーは、直近のUCI個人4Xランキングを基に、33または65から始まる連続番号とする。メインイベントの第1ラウンドに参加資格を得る競技者の数は、3または4名で構成できるヒート数により決定する。

4. ヒート(最多64競技者)まで可能である。予選ラウンドに64名に満たない競技者が参加する場合、ヒートあたり3または4名の最少数を尊重しつつ、ヒート数を16, 8, 4 または 2とすることができ、ヒートの順番(男子が先に女子と同じヒート制で続く。決勝: 女子スモール・フライングに続き決勝、そして男子スモール・フライングに続き決勝)

7. 決勝ラウンドに加え、第5位から第8位を決定する。決勝ラウンドの予選ラウンドの出走順によりスモール・フライングを行う。準決勝でDNF, DSQ あるいは DNS であった競技者はスモール・フライングに参加できない。

8. 競技の最終順位は、下記の順のグループごとに作製する:

1. ビッグ・フライングで競技した、DSQ 競技者を除く全競技者を順位付けする。
2. スモール・フライングで競技した、DSQ 競技者を除く全競技者を順位付けする。
3. 準決勝で DNF あるいは DNS であった競技者を3順位付けする。
4. その他の競技者の順位は、連したラウンド、ラウンドにおける順位、そしてレーズ・ナンバーにより決定する。

5. メインイベントの第1ラウンドでDNF、DSQ あるいは DNS であった競技者は順位外とする。上記の各グループ内において、DNF 競技者は、DSQ 競技者より上に、DSQ 競技者は、DNS 競技者より上に、DNF、DSQ あるいは、DNS が複数ある場合、レーズ・ナンバーにより順位付けする。メインイベントにより順位付けする。メインイベントに参加できなかった競技者は、最終順位に含まれない。予選ラウンドの結果を最終結果とする。

11. 競技者は各旗門をまたがずに通過することを要求される。すなわち、自転車の内輪が各旗門の内側の軌跡をたどらなければならない。これはコース沿いに位置するジャッジあるいは利用可能なTVの複合により判定される。旗門不通過または踏ぎ越しは、競技者が正しく通過しなおさない限り、その競技者を失格とする。

(8) カード手続き  
メインイベント中、フライングにおけるコミセールにより色カード方式が用いられる。彼の決定はチーム・コミセールにより確認されなければならない。

コミセールの指示によりスタートしなければならない。女子は男子の前にスタートする。予選ラウンドに使用するレーズ・ナンバーは、直近のUCI個人4Xランキングを基に、33または65から始まる連続番号とする。メインイベントの第1ラウンドに参加資格を得る競技者の数は、3または4名で構成できるヒート数により決定する。

4. ヒート(最多64競技者)まで可能である。予選ラウンドに64名に満たない競技者が参加する場合、ヒートあたり3または4名の最少数を尊重しつつ、ヒート数を16, 8, 4 または 2とすることができ、ヒートの順番(男子が先に女子と同じヒート制で続く。決勝: 女子スモール・フライングに続き女子ビッグ・フライング、そして男子スモール・フライングに続き男子ビッグ・フライング)

7. 決勝ラウンドに加え、第3位と4位の競技者によりスモール・フライングを行う。準決勝でDNF, DSQ あるいは DNS であった競技者はスモール・フライングに参加できない。

競技の最終順位は、下記の順のグループごとに作製する:

1. ビッグ・フライングで競技した、DSQ 競技者を除く全競技者を順位付けする。
2. スモール・フライングで競技した、DSQ 競技者を除く全競技者を順位付けする。
3. 準決勝で DNF あるいは DNS であった競技者を3順位付けする。
4. その他の競技者の順位は、連したラウンド、ラウンドにおける順位、そしてレーズ・ナンバーにより決定する。

上記の各グループ内において、DNF 競技者は、DNS 競技者より上に順位付けする。DNF あるいは、DNS が複数ある場合、レーズ・ナンバーにより順位付けする。メインイベント第1ラウンドのDNF あるいは、DNS 競技者は順位外に一覧される。メインイベントのDSQ 競技者は順位外に一覧される。メインイベントに参加できなかった競技者は、最終順位に含まれない。4Xメインイベント(エリミネーション・ヒート)が何らかの理由により取りやめる必要があったとき、予選ラウンドの結果を最終結果とする。

競技者は各旗門をまたがずに通過することを要求される。すなわち、自転車の内輪が各旗門の内側の軌跡をたどらなければならない。これはコース沿いに位置するジャッジあるいは利用可能なTVの複合により判定される。旗門不通過または踏ぎ越しは、競技者が正しく通過しなおさない限り、その競技者を失格とする。

(8) カード手続き  
メインイベント中、フライングにおけるコミセールにより色カード方式が用いられる。彼の決定はチーム・コミセールにより確認されなければならない。

カード	意味	コード	1回目 > ペナルティなし
黄	警告 競技者は優位性を得なかったが、行動は規則違反であった	WRN	
青	降格 競技者はゲートを正しく通過できなかった	REL	実際のフライングヒート内で順位を争う
赤	失格 危険な状態その他競技者を相手	DSQ	以降の競技から除外、順位なし

カード	意味	コード	1回目 > ペナルティなし
黄	警告 競技者は優位性を得なかったが、行動は規則違反であった	WRN	
青	降格 第 92 条 4、第 110、111、および第 92 条 4、(3)、(4) に明記	REL	ヒート順位は実際のフライングとは異なる
赤	失格 第 92 条 2、(1)⑤	DSQ	以降の競技から除外、順位なし

5. スター・レーズ

(4) 技術的準備

2. リエゾン(非競走)は最多でスター・レーズの75%まで含むことができる。35kmを超えるリエゾンは含むことができない。先導車中は、スター・レーズに到達するまで集団の速度をコントロールしなければならぬ。スタートは、スター・レーズにおいて停止状態から行わなければならない。スタートは、先導車面到着後30分以内に行わなければならない。

スター・レーズ

技術的準備

リエゾン(非競走)は最多でスター・レーズの75%まで含むことができる。35kmを超えるリエゾンは含むことができない。先導車中は、スター・レーズに到達するまで集団の速度をコントロールしなければならぬ。スタートは、スター・レーズにおいて停止状態から行わなければならない。スタートは、先導車面到着後30分以内に行わなければならない。

**第19章 BMX競技規則**

**第95条 (BMX規則)**

1. 一般規則
1. 参加者の年齢
1. UCI認可のBMX競技に参加する競技者の最低年齢は5歳とする。最少年齢5歳は、レース開始日における層上の実年齢とする。
2. BMX競技は、エリートとジュニア・カテゴリーから構成されるチャンピオン・レベルとチャレンジャー・レベルの2つの競技水準に区分される。
3. 17歳以上の競技者は、シーズン開始時、すなわちスプリント、フライング、カテゴリー(車輪径20インチおよび24インチ)および性別グループにおいて、チャンピオン・レベルまたはチャレンジャー・レベルのいずれかのレベルで競技することを選択できる。競技日程のシーズンは8月1日に始まり、翌年の7月31日まで継続する。競技者は同一大会のチャンピオン・レベルおよびチャレンジャー・レベルに参加することはできない。
- (2) 統合規則
7. すべての方々が結局、最終結果を決定する決勝まで行う。
2. JCFが指名する技術代表とは:  
大会の競技面を監督する。
1. 大会の公式トレーニング期間に先立って会場に行き、チーム・コミセールおよび主催者と合同して会場および走路の査察を実施する。チームおよび変更の最終決定は技術代表の承認を得る。

- (BMX規則)
1. 一般規則
- 参加者の年齢
- 競技者のカテゴリーは、競技大会の開催年と競技者の生年の差によって定義される競技者の年齢により決定される。
- UCI認可のBMX競技に参加する競技者の最低年齢は5歳とする。最少年齢5歳は、レース開始日における層上の実年齢とする。
- BMX競技は、エリートとジュニア・カテゴリーから構成されるチャンピオン・レベルとチャレンジャー・レベルおよびスター・レベルの3つの競技水準に区分される。
- 17歳以上の競技者は、シーズン開始時、該当する年齢および性別グループにおいて、チャンピオン・レベル、チャレンジャーまたはスター・レベルのいずれかのレベルで競技することを選択できる。競技日程のシーズンは8月1日に始まり、翌年の7月31日まで継続する。競技者は同一シーズン中にはチャンピオン・レベルおよびチャレンジャーの両方レベルに参加することはできない。
- 統合規則
- 競技者が8人未満しかない場合、3回のモトによる計数が最終結果を定義する回のモト・レースを行う。
- 技術代表
- JCFが指名する技術代表とは:  
大会の競技面を監督する。
1. 大会の公式トレーニング期間に先立って会場に行き、チーム・コミセールおよび主催者と合同して会場および走路の査察を実施する。トレーニングおよび変更の最終決定は技術代表の責任による。技術代表の指名がな

## 第一級公認審判員講習会(トラック&ロード) 結果と講評

競技運営委員会

平成23年度 第一級公認審判員講習会(トラック&ロード)は、受講者定員10名に対して、18名の応募がありました。書類審査により、定員通り10名の受講者を決定いたしました。実習は都道府県対抗自転車競技大会と全日本大学対抗自転車競技大会それぞれにおいて5名づつが受講しました。実習合格者は5名でした。実習合格者には講習の受講資格が与えられ、平成24年1月に東京で実施された講習・検定の結果、4名が合格いたしました。(結果)合格者:藤田 克市(岩手)・小野口 裕朗(栃木)・岡和田 真治(東京)・炭電 純一(岐阜)  
(講評)

「コミセールは2級以上の公認審判員があたる。このうちよりコミセール・パネルを構成する」、「チーフコミセールは原則として1級公認審判員があたる」(JCF 規則第54条)となっており、1級公認審判講習受講者は、合格後は全国大会のチーフコミセールを務めるにたる力量が期待されており、2級公認審判員時代に様々なポジション・チーフや地域大会のチーフコミセールを努めて十分な経験を積まれていることが期待されています。今回不合格となった方々には、これまでの執務実績が十分ではなく、もしくは特定のポジションに偏っていてチーフコミセールとして広く競技管理を行うにはまだ経験不足と思われる方、競技規則に関する基本的知識が十分でなく、一級審判受講者としては準備に欠けるとと思われる方、特定の分野の熟練度は高いものの、残念ながら競技運営の最終責任者として大会を成功に導く責任感・自覚にかけられる方なども見受けられました。

経験不足は本人の努力のみでは解決できない側面もあり、各加盟団体におかれましては地域別大会等の実施時に受講予定者を積極的に責任あるポジションに起用し、実務における経験度の向上に配慮いただくようお願いいたします。

我が国の自転車競技発展のためには優秀な審判員により運営される安全で円滑な大会開催が不可欠であり、審判員各位が更に技量の向上に努め、経験を積まれてより上級資格へ挑戦されることを期待しております。 以上

### ○実習の評価項目

実習検定

- |                                |    |
|--------------------------------|----|
| 1. 審判員としての心構え、道具の準備            | 30 |
| 2. 競技規則の知識、理解度                 | 30 |
| 3. 業務の実践的遂行能力、経験               | 30 |
| 4. 審判団とのコミュニケーション能力、並びにリーダーシップ | 30 |
| 5. 一級取得後の目的意識・意欲               | 30 |

総合評価 150

項目毎評価基準 A:優れている:30点 B:やや優れている:20点 C:普通:10点 F:不可:0点

総合評価基準 A:150-130点 B:120-80点 C:70-30点 F:不可:20-0点 合格:B以上

### ○講習の評価項目

企画・運営:50点 ロード競技規則100点 トラック競技規則100点

評価基準:得点率がすべての科目で科目毎に2/3以上、総合計で3/4以上

たったひとつの肉体が生み出すスピードや運動性。  
疾走しはじめるやすぐさま全身にたたきつけられる空気抵抗。  
包み込むのは太陽の光、風、時には雨、温度と湿度の果てしない組合せ。  
筋肉と皮膚、そして五感が会おうまったく新しい世界がそこにある。  
シンプルにして豊穡。過酷にして快感。そこにバイクライドの魅力がある。  
この喜びを全身で体感するためには、もちろんそれにふさわしいギアがある。  
すべてのテクノロジーを幸せなバイクライドのために——





すべてのテクノロジーを  
幸せなバイクライドのために

**BIKE12**

SPRING & SUMMER COLLECTION

GOLDWIN INC. <http://www.goldwin.co.jp/>

# 2012年ウイメンズ・ツアー・オブ・ニュージーランド

## 2月22日 第1ステージ 個人TT:7.1km

18時からプロローグの個人タイムトライアルがスタート。雨が一段と強くなり肌寒い中、優勝したのは北京オリンピックチャンピオンのArmstrong-Sivola Kristin(USA)。

## 2月23日 第2ステージ: 137km

15kmニュートラル走行後レーススタート。開始直後10名ほどの落車があり日本選手は無事通過したが、5km地点の緩い上り坂で、赤塚が早くも集団から遅れる。

16.8km地点のスプリント通過後、3名の選手が集団から抜け出し、30秒前後で逃げる。29km地点で明珍が集団から遅れる。逃がっているトップ3名との差1分前後で、アメリカチームが集団をコントロールする。

99km地点下り坂で萩原、西、針谷が集団から遅れる。西と針谷は109.6km地点で再び集団に追い付くものの、ラスト25km地点右横風で集団が1列棒状となった所で西、針谷と続けて集団から遅れる。

ラスト20km逃がっていたトップ3名がメイン集団に吸収され、ラスト5km28名のメイン集団はアタック合戦となり、レースリーダーがいるアメリカチームが集団をコントロールする。集団スプリントを制したのはRowney Loren(VIS)。レースリーダーは変わらずArmstrong-Sivola Kristin。

## 2月24日 第3ステージ 121km

15kmニュートラル走行後レース開始。今日は落車もなくスムーズにスタート。開始直後からアタック合戦となり、積極的なレース展開となる。

18km地点でGrace Sulzberger(JAI)が集団から抜け出し、1分前後で逃げる。66km地点登り坂で明珍、赤塚と続けて集団から遅れる。

76km地点で集団が大きく分かれ、針谷と西は第2集団に取り残される。西はその集団からも遅れるが、再び追い付くことに成功する。

トップ集団は24人で、そのまま集団ゴールスプリントになりArndt Judith(GEC)が優勝。総合は変わらずArmstrong-Sivola Kristin。

## 2月25日 第4ステージ: 110km

パーマストンでは珍しく、風のない穏やかな天気となった。ニュートラル走行6kmでレース開始。スタートからアタック合戦となり、ハイペースのレース展開となった。18km地点で針

谷が落車に巻き込まれ、打撲がひどく起き上がれない状態なので、救急車に乗せてレースはリタイアした。

45km地点で9名の選手が、集団から抜け出し逃げる。レースリーダーのいるUSAチームと上位のグリーンエッジチーム(GEC)の選手がトップ集団にいるため、両チームがメイン集団をコントロール。そのためメイン集団はスローペースとなり、80km地点では差が8分に広がる。ラスト30km、トップ集団から抜け出した2名が22秒差で逃げ切り、ゴール勝負でCrum Emma(CYC)が優勝。

## 2月26日 第5ステージ 111.9km

スタート直後からアタック合戦となるも、なかなか決定的な逃げが決まらなかったが、周回コースに入る分岐点で4名の選手が、メイン集団からの抜け出しに成功する。GECとUSAのエースが逃げているため、1分30秒前後の差で集団がコントロールされる。34km地点で明珍が集団から遅れる。

トップ集団とメイン集団のタイム差2分45秒、46.5kmのKOM地点で3名がメイン集団からアタック。続いて萩原を含む4名の選手が、メイン集団から抜け出し逃げているグループを追走、前を走っていた3名がトップ集団4名に追い付く。トップ集団とのタイム差を45秒まで詰めた所で、萩原が追走グループから脱落しメイン集団に吸収される。

トップ集団は9名になりメイン集団とのタイム差2分前後。トップ集団がアタック合戦となり、Linda Villumsen(GEC)が単独で逃げる。追走するトップ集団はコントロールされ、逃がっていた8名の選手はメイン集団に吸収。単独で逃げたLinda Villumsenが、メイン集団に1分55秒差を付け最終ステージ優勝。

総合優勝は2位と1秒差で、Stevens Evelyn(USA)となった。

### <まとめ>

今大会ではUCIポイントを獲得するための遠征であり、総合成績上位を狙える可能性は低いため、各ステージで3位以内入賞を目指した積極的なレース展開を望んだが、集団からのアタックは萩原の1度だけであった。

積極的なレース展開を恐れることなく勝利に執着し、積極的な走りが出る選手強化育成が急務である。

(強化コーチ 高橋 松吉)

### [競技結果]

2012 ウイメンズ・ツアー・オブ・ニュージーランド

(2012/2/22-26 ニュージーランド・ウイメンズ)

#### 個人総合成績

1	STEVENS Evelyn USA	13:08:56
2	GILLOW Shara GEC	+0:01
3	HEATHER Taryn JAI	+0:13
31	西 加奈子 千葉 LUMINARIA	+21:15
37	萩原麻由子 和歌山 CB あさひ	+26:20
59	赤塚友梨恵 埼玉	+1:45:00
60	明珍 裕子 岐阜 朝日大学	+1:47:48
	針谷千沙子 栃木 CB あさひ	DNF

#### 団体総合成績

1	Green Edge - GEC	39:39:41
2	USA National Team	+2:09
3	Jayco Australia - JAI	+3:07
12	日本ナショナルチーム	+1:17:09

#### 第1ステージ (7.1km) タイムトライアル

1	ARMSTRONG SIVOLA Kristin USA	10:15
2	STEVENS Evelin USA	+0:17
3	ARNDT Judith GEC	〃
24	萩原麻由子 和歌山 CB あさひ	+1:09
61	赤塚友梨恵 埼玉	+1:51
62	西 加奈子 千葉 LUMINARIA	+1:58
64	針谷千沙子 栃木 CB あさひ	+2:00
67	明珍 裕子 岐阜 朝日大学	+2:03

#### 第2ステージ (137km)

1	ROWNEY Loren VIS	3:57:07
2	ARNDT Judith GEC	〃
3	ARMSTRONG SIVOLA Kristin USA	〃
33	西 加奈子 千葉 LUMINARIA	+2:38
34	針谷千沙子 栃木 CB あさひ	〃
44	萩原麻由子 和歌山 CB あさひ	+11:54
60	赤塚友梨恵 埼玉	+45:44
65	明珍 裕子 岐阜 朝日大学	+48:20

#### 第3ステージ (121km)

1	ARNDT Judith GEW	3:29:30
2	ARMSTRONG SIVOLA Kristin USA	〃
3	ROWNEY Loren VIS	〃
34	萩原麻由子 和歌山 CB あさひ	+06:01
39	西 加奈子 千葉 LUMINARIA	+09:23
40	針谷千沙子 栃木 CB あさひ	〃
57	明珍 裕子 岐阜 朝日大学	+28:50
58	赤塚友梨恵 埼玉	〃

#### 第4ステージ (110km)

1	CRUM, Emma CYC	2:49:48
2	BRADLEY Amy WWR	〃
3	STEVENS Evelyn USA	+0:22
25	萩原麻由子 和歌山 CB あさひ	+8:02
26	西 加奈子 千葉 LUMINARIA	〃
56	赤塚友梨恵 埼玉	+9:55
58	明珍 裕子 岐阜 朝日大学	〃
	針谷千沙子 栃木 CB あさひ	DNF

#### 第5ステージ (111.9km)

1	VILLUMSEN Linda Melanie GEC	2:39:35
2	BACCAILLE Monia ITA	+1:55
3	GILLOW Shara GEC	〃
21	萩原麻由子 和歌山 CB あさひ	〃
29	西 加奈子 千葉 LUMINARIA	〃
59	赤塚友梨恵 埼玉	+21:21
60	明珍 裕子 岐阜 朝日大学	〃



# 競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

## 第7回BMXアジア選手権・アジアジュニア選手権 (2012/3/3 ホンコンチャイ)

### 男子リト

1	Raymon van der Bienen	NED	27.50
2	Luis Brethauer	GER	27.70
3	Jelle van Gorkom	NED	27.80

### 女子リト

1	Daniels Dominique Kristan Storm	USA	32.1
2	Yan Lu	CHN	32.9
3	Cong Yue	CHN	34.9
8	Ayaka Miwa	JPN	53.9

### 男子ジュニア

1	Julian Schmidt	GER	29.90
2	Kouhei Yoshii	JPN	30.10
3	James Palmer	CAN	30.70

## ホンコン BMX ジョーデルツリケ (2012/3/4 ホンコンチャイ)

### 男子リト

1	Raymon van der Bienen	NED	28.10
2	Jelle van Gorkom	NED	28.30
3	Maik Baier	GER	28.85
6	Tatsumi Matsushita	JPN	30.20

### 女子リト

1	Daniels Dominique Kristan Storm	USA	29.80
2	Yan Lu	CHN	31.20
3	Ayaka Miwa	JPN	32.90

### 男子ジュニア

1	Julian Schmidt	GER	29.70
2	Kouhei Yoshii	JPN	29.80
3	James Palmer	CAN	31.50

## 【東日本大震災の義援募金のご報告】

この度は、東日本大震災の義援募金にご協力ありがとうございました。

平成23年12月31日で本連盟の義援募金を締め切らせていただきました。皆さまからの募金額はあわせて3,306,749円となりました。

平成24年2月14日付で日本赤十字社へ寄付させていただきましたのでご報告いたします。

第36回チャレンジロード参加申込者	2,554,848円
ツール・ド・台湾 日本代表チーム	304,140円
アジア自転車競技連合 (ACC)	166,440円
関係者一同	281,321円
合計	3,306,749円

## 2012 UCI パラサイクリングトラック世界選手権 日本代表選手団

大会名 2012 UCI パラサイクリングトラック世界選手権

開催日程 2012年2月9日～12日

開催場所 アメリカ・ロスアンジェルス

代表選手団

監督 高橋 仁 メカニック 藤原富美男 コーチ 平松 竜司 トレーナー 高橋 太一

選手 藤田 征樹 (茨城 / チームチェプロ・日立建機)

大城 竜之 (東京 / チームチェプロ・文京盲学校)

伊藤 保文 (JPCA / 日本競輪選手会京都支部)

石井 雅史 (神奈川 / チームスキップ・藤沢市みらい創造財団)

阿部 学宏 (静岡 / スペードエース・銚子屋本店)・田中 哲也 (北海道)

## 2012年ウイメンズ・ツアー・オブ・ニュージーランド 日本代表選手団

大会名 2012年ウイメンズ・ツアー・オブ・ニュージーランド (UCI WE-2.2)

開催場所 ニュージーランド・ウエリントン

開催日程 2012年2月22日～26日

派遣日程 2012年2月20日～27日

代表選手団

監督 高橋 松吉 (JCF 強化コーチ)

マッサー 石田 宗男 (JCF 強化スタッフ) メカニック キャメロン・ケズ (現地スタッフ)

通訳 勝島友紀子

選手 西 加南子 (千葉・LUMINARIA)・萩原麻由子 (和歌山・サイクルベースあさひレーシング)

明珍 裕子 (岐阜・朝日大学)・針谷千紗子 (栃木・サイクルベースあさひレーシング)

## 2012年ツール・ド・台湾 日本代表選手団

大会名 2012年ツール・ド・台湾 (UCI アジアツアー 2.1)

開催日程 2012年3月10日～16日

派遣日程 2012年3月8日～17日

開催場所 チャイニーズ タイペイ・台北～高雄

代表選手団

監督 高橋 松吉 (JCF 強化コーチ)

メカニック 鬼原 積 (JCF 強化スタッフ)

マッサー 森 典隆 (JCF 強化支援スタッフ)

選手 西谷 泰治 (愛知・愛三工業レーシングチーム)・畑中 勇介 (東京・シマノレーシングチーム)

早川 朋宏 (愛知・法政大学)・中尾 佳祐 (埼玉・順天堂大学)

山本 元喜 (奈良・鹿屋体育大学)

## 2012年UCIトラック世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2012年UCIトラック世界選手権大会

開催場所 オーストラリア・メルボルン

開催日程 2012年4月4日～8日

派遣日程 2012年3月31日～4月10日

代表選手団

監督 松本 整 (JCF ナショナルチーム総監督)

コーチ 坂本 勉 (ナショナルコーチ)・村田 正洋 (アシスタントナショナルコーチ)

アドバイザー 沖 美穂 (JCF 強化アドバイザー)

メカニック 森 昭雄 (JCF 強化スタッフ)・鬼原 積 (JCF 強化スタッフ)

マッサー 柳 浩史 (JCF 強化スタッフ)・酒井 修 (JCF 強化スタッフ)

ドクター 小林 裕幸 (JCF 医学スタッフ)

総務 貝塚 直子 (JCF 事務局)

選手 中川誠一郎 (JPCA・JPCU 熊本)・渡邊 一成 (JPCA・JPCU 福島)

新田 祐大 (JPCA・JPCU 福島)・雨谷 一樹 (JPCA・JPCU 栃木)

西谷 泰治 (愛知・愛三工業レーシングチーム)・石井 寛子 (東京)

前田佳代乃 (鹿児島・鹿屋体育大学)・田畑 真紀 (JPCA・ダイチ)

加瀬加奈子 (新潟・日本競輪学校)・上野みなみ (青森・鹿屋体育大学)

# NEWS

● 平成 23 年度 JCF 優秀選手賞について

- ◆2011年UCIサイクルサッカー・ワールドカップ第3戦 東京大会（日本・東京）  
村上 裕亮・合田 昌司（大阪・RSV 大阪）……………サイクルサッカー 3 位
- ◆2011年UCIパラサイクリングロード・ワールドカップ第1戦（オーストラリア・シドニー）  
藤田 征樹（茨城・チームチェプロ/日立建機）……………男子 C1-3 ロード 3 位

● 日本体育協会・日本オリンピック委員会創立 100 周年記念事業 特別功労者・功労者表彰

日本体育協会・日本オリンピック委員会創立 100 周年記念事業において、下記の方が特別功労者・功労者表彰を受賞されました。(敬称略・順不同)

<特別功労者>

岡本 雄作

<功労者>

岩楯 昭一・鈴木 孝幸・大島 研一・井関 康正・岡田 行雄・倉升 善徳・成田 昇・藤本 清孝  
 奥田 悦司・小西浩一郎・坂井田米治・佐々木正人・武 晋一・竹沢 義忠・富原 忠夫・中西 泰三  
 堀江洋一郎・松村 正之・森 一起・山崎 隆明・林 辰夫・松尾嘉之輔・阿部毅一郎・村田 統司  
 亀田 博文・穴田 勝彦・加藤 昭・山本 卓真・花岡 宗助・桂 正洋・竹花 敏・中村 義行  
 市川 清義・市川 孝雄・泉 恒・大橋 勲・狩野 哲男・蒲 省司・川上 明雄・熊谷 烝佑  
 高橋 耕作・永岡 董且・中村 等・西村 輝彦・萩原 重一・林 勝・福田 勝昭・増田 亨  
 村井 武治・森 兵次・山口 清孝・山口 秀雄・大和 孝義・君嶋 正之・植山 一晴・石田 洋之

## 連盟の動き (2月下旬～3月下旬)

- |                                       |                          |
|---------------------------------------|--------------------------|
| 2月29日 平成 23 年度第 9 回広報部会               | 於：東京・日本自転車会館 3 号館 3 階    |
| 3月 5日 平成 23 年度第 6 回常務理事会・第 5 回選手強化本部会 | 於：東京・日本自転車会館 3 号館 4 階    |
| 10日 ツール・ド・台湾 日本代表選手団出発                | 於：チャイニーズタイペイ 帰国→ 3/17    |
| 9日 平成 23 年度第 4 回理事会                   | 於：東京・日本自転車会館 3 号館 4 階    |
| 15日 平成 23 年度第 1 回評議員会                 | 於：東京・日本自転車会館 2 号館 8 階    |
| 28日 トラック世界選直前強化合宿                     | 於：静岡・日本 CSC (～ 31)       |
| 31日 トラック世界選日本代表選手団出発                  | 於：オーストラリア・メルボルン 帰国→ 4/10 |



## 今後の大会予定

期 日	大 会 名	種 目	場 所
4月14日～15日	菖蒲谷エンデューロ&クロスカントリー J2 J2/XC	MTB	兵庫/たつの 菖蒲谷森林公園
4月15日	2012年全日本トライアル選手権大会	TRIAL	愛知/新城 桜洲県立自然公園
4月22日	第1回トラック・タイムトライアル・チャレンジ	TR	前橋/グリーンドーム前橋
4月28日	第17回ジュニア全日本選手権ロード・レース	RR	岩手/八幡平
4月28日	第81回全日本アマチュア自転車競技選手権大会ロード・レース	RR	岩手/八幡平
4月29日	第15回全日本自転車競技選手権大会ロード・レース	RR	岩手/八幡平
5月3日～6日	ジャパンシリーズJ1 びわ湖高島大会 DHI#1/XCO#1	MTB	滋賀/高島 箱館山、朽木山
5月6日	第32回西日本学生選手権トラック自転車競技大会	TR	京都/向日町
5月12日～13日	第52回東日本学生選手権トラック自転車競技大会	TR	山梨/境川自転車競技場
5月14日	第59回全日本プロ選手権自転車競技大会トラック・レース	TR	群馬/前橋
5月19日～20日	第14回修善寺オープンロード+女子オープンロード	RR	静岡/日本CSC 5kmサーキット
5月20日～27日	第15回ツアー・オブ・ジャパン	RR	堺・美濃・南信州・富士山・伊豆・東京
5月26日～27日	第81回全日本アマチュア自転車競技選手権大会トラック・レース	TR	長崎/佐世保
5月24日～27日	2012年UCI BMX世界選手権大会	BMX	イギリス/パーミンガム
5月26日～27日	J八幡浜インターナショナル XCO#2 J/XC	MTB	愛媛/八幡浜
5月31日～6/3	第14回TOUR de 熊野	RR	和歌山/熊野他
6月1日～3日	第25回全日本マウンテンバイク選手権大会	MTB	長野/富士見
6月2日	第51回全日本学生選手権チーム・ロード・タイムトライアル大会	RR	埼玉/加須 羽生利根川上流域
6月9日	第28回全日本学生選手権個人ロードレース大会(女子)	RR	長野/木祖村 奥木曾湖周回コース
6月10日	第28回全日本学生選手権個人ロードレース大会(男子)	RR	長野/木祖村 奥木曾湖周回コース
6月16日～17日	The 4th J2 きじま平大会 J2/XC	MTB	長野/木島平
6月17日	2012年全日本選手権個人タイム・トライアル・ロードレース	RR	秋田/大湯
6月24日	第46回JBCF 東日本ロードクラシック 群馬大会	RR	群馬/群馬CSC
6月30日～7/1	第53回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	TR	宮城/大和
6月30日～7/1	ジャパンシリーズJ1 ニセコ花園 XCO#3	MTB	北海道/倶知安 ニセコ花園スキー場

無限の夢へ、走りだそう。



# RING!RING! プロジェクト

競輪の補助事業



ツール・ド・台湾 団体総合優勝の日本ナショナルチーム

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.189 2012年3月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟  
 発行人/富原忠夫  
 編集人/塚本芳大  
 編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局  
 〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内  
 TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>



この資料および〇〇の表示がある事業は、JKAから競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。  
 © (財)日本自転車競技連盟 2012年紙掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。  
 ※本誌「シクリスムエコー」定期購読をご希望の方は編集事務局までお問合せください。

＝シクリスムエコー読者のみなさまへ＝ 本誌についてのご意見、ご感想、ご要望等を編集事務局までお寄せください。